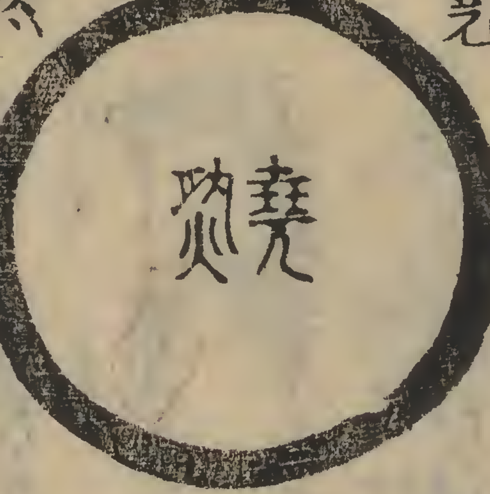
家醉古襍 五編 全

五編目次

茶家印譜

尭然親王

妙法院宮三十世聖主慈奇院ト号ス
書体 通村流ヨリ出テ一風アリ





道晃親王

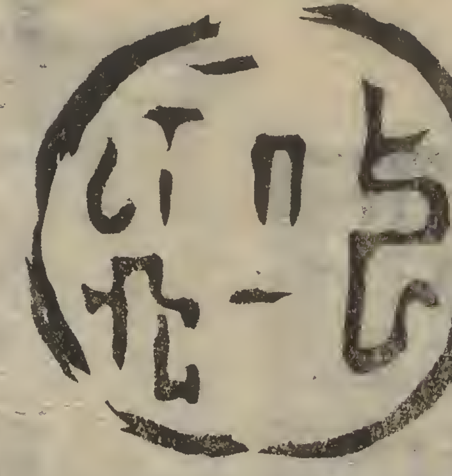
後陽成帝第十二皇子聖護院宮二十五世照高院ト称ス 延宝六年薨六十八又書法別ニ法ヲナシ玉フ



信尹公

近衛殿左大臣関白初名信基信輔三藐院ト号ス
又称杉公慶長十九年十一月薨五十歳
書体世ニ近衛流トエフ又和歌ヲ能シ玉フ

銅印中不分 恐泊來乎

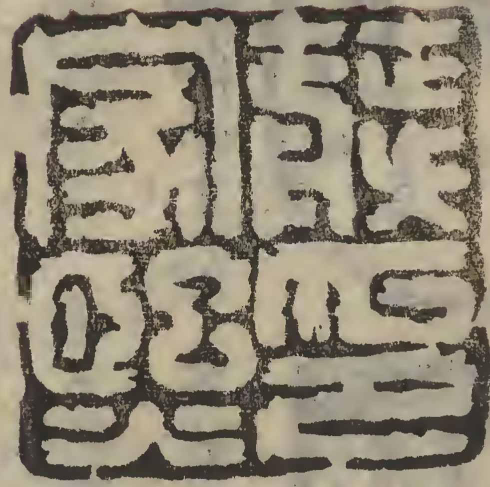




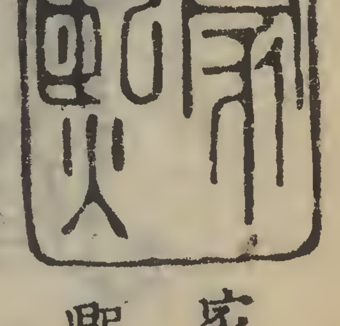




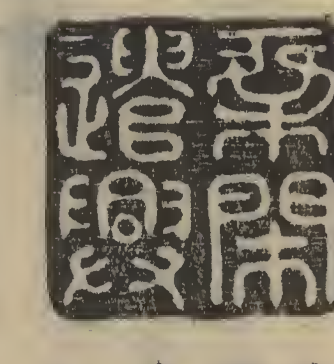
家凞公　近衛殿　関白基凞公男
関白太政大臣准三后豫楽
院又虚舟ト号ス元文元十月薨七十歳又
書法上代様御能筆



藤印
家凞

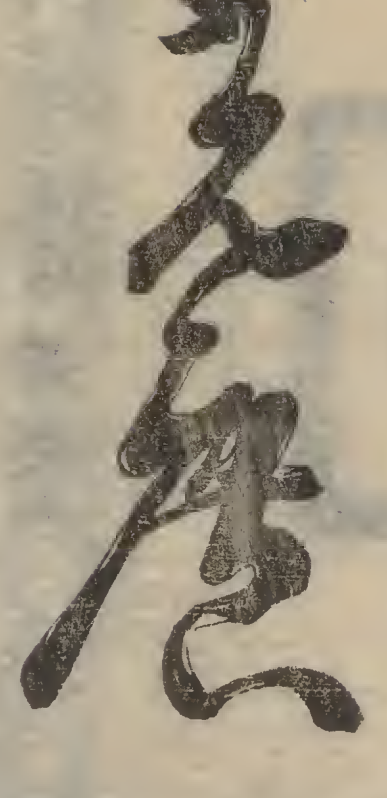


家凞



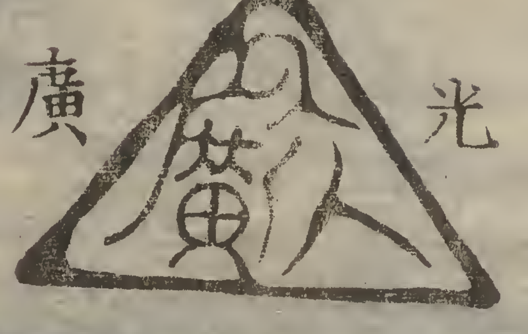
秉開遺與

光廣卿　烏丸権大納言従二位
法雲院ト号ス又有烏
子宮ト号ス寛永十五年七月薨六十歳書体
定家流兼光悦流ヲ好ム亦和哥ヲ
ヨクシ狂画ヲヨクシ玉フ



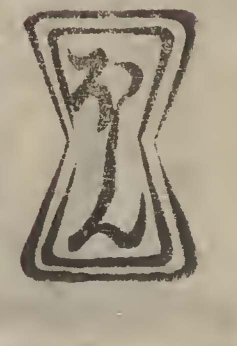


不分

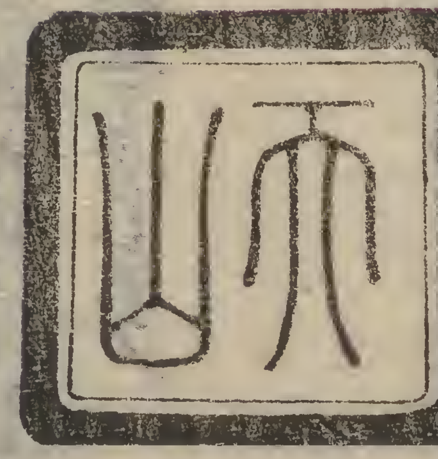


光廣

有隣軒　号輔信



足利義政公　号天山



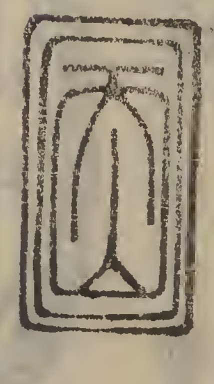
天山



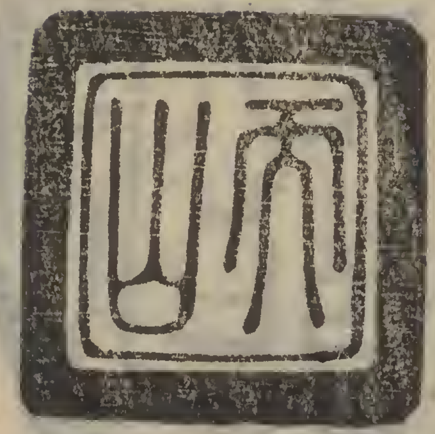
天山

足利家印章未考

天山



天山

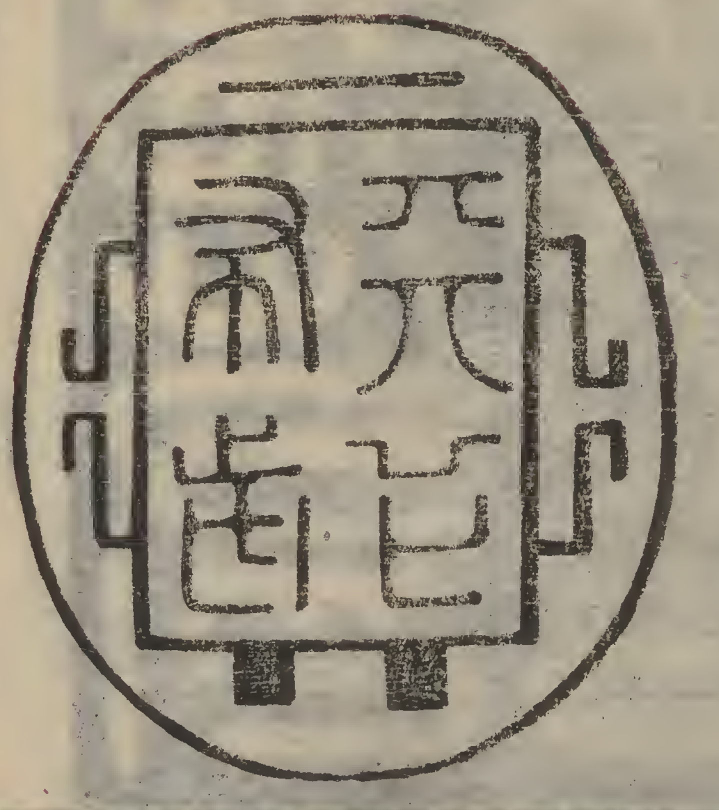


德有鄰



織田信長公

天下
布武



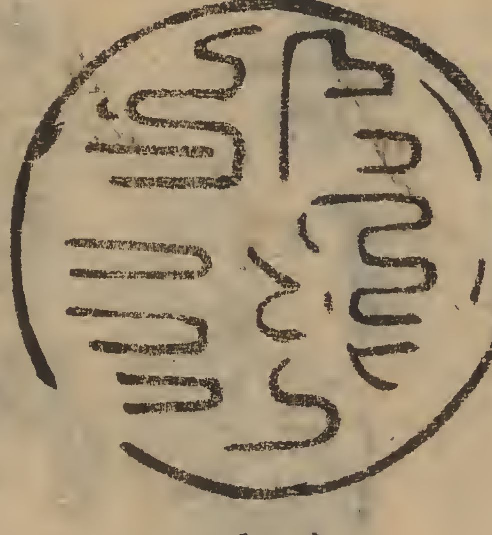
右印章見据部輔正

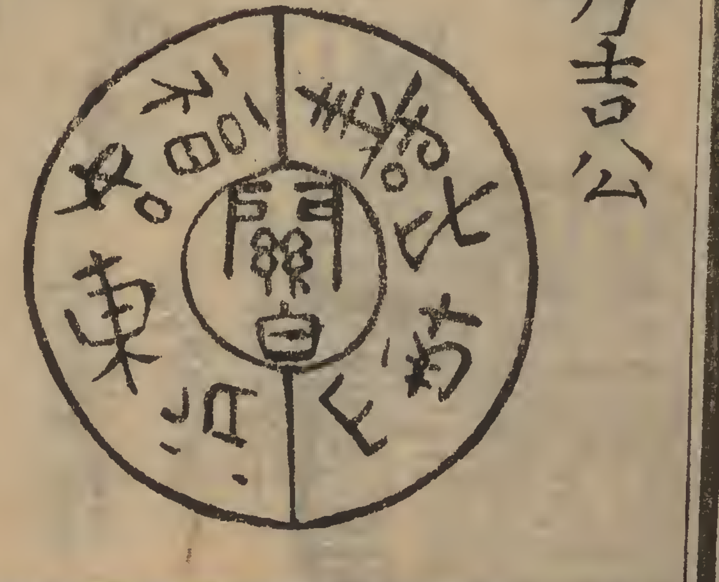


右印章所見異本印廓非東輪
故淺出於此

豐臣秀吉公

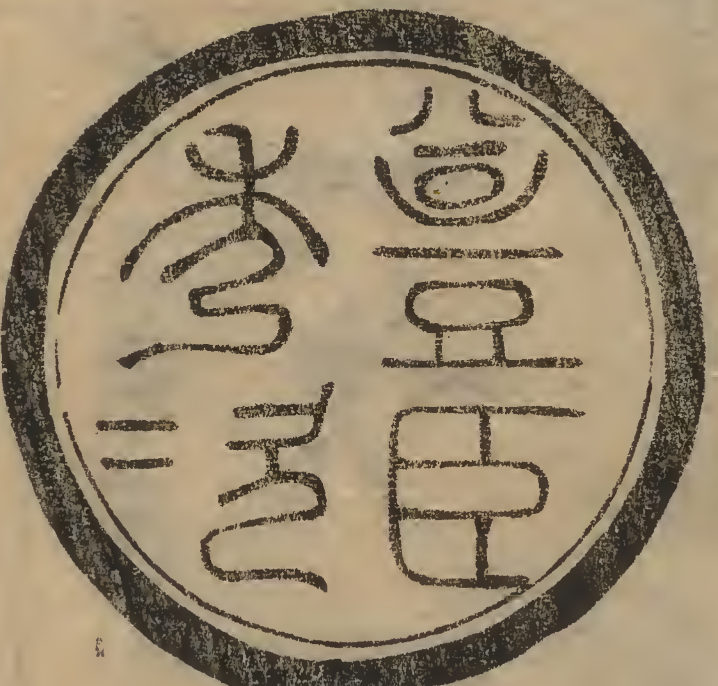
壽比南山
福如東海
閤白





秀吉公印
印文雖非

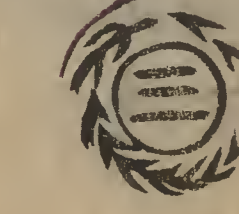
豐臣秀次公



豐臣
秀次

細川三齋侯

三斎



仙臺吉村侯 号獅山

危ケ将

吉村圖



心畫

稲葉正喬侯 号容軒 及含章

正喬

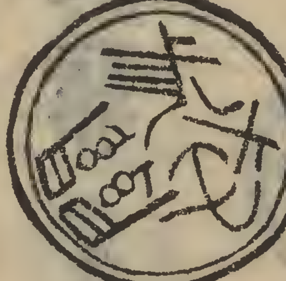


容軒



含章之印

片桐石州侯 号三叔 宗関



関 三叔

松浦鎮信侯 号天祥庵

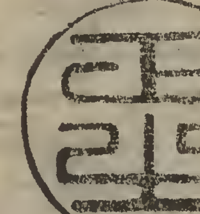
天祥庵鎮信



保科正之侯

受茶法於石州侯

正之

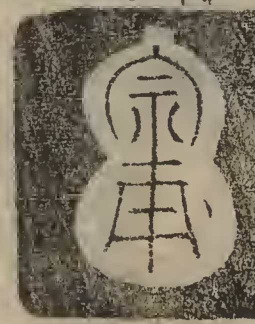


正之

小堀遠州侯　号大有　宗甫

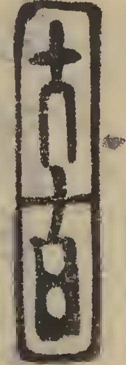


宗甫

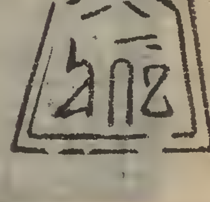


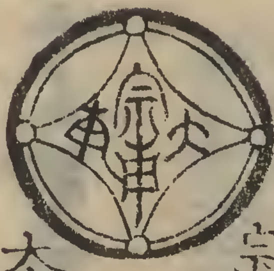
上日





大有





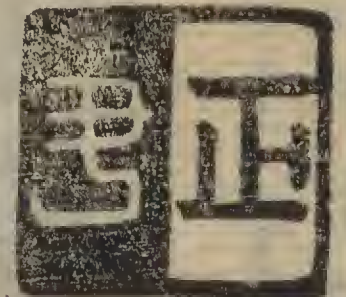
大有　宗甫

同大膳　名正之

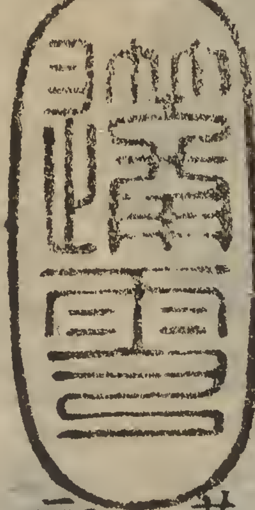


同権十郎　名政尹　号蓬雪子

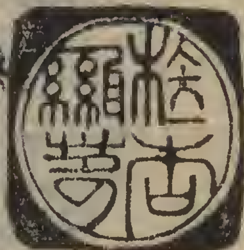
蓬雪書



正尹



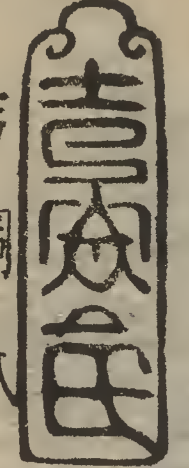
蓬雪



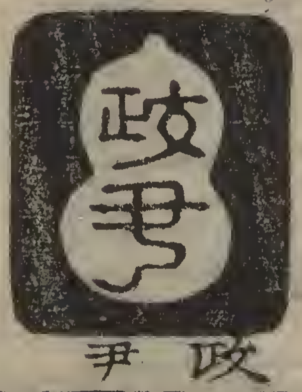
桂杏　聯芳



政

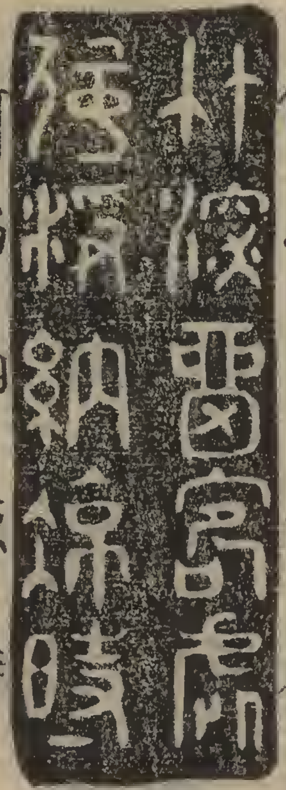


吉岡氏

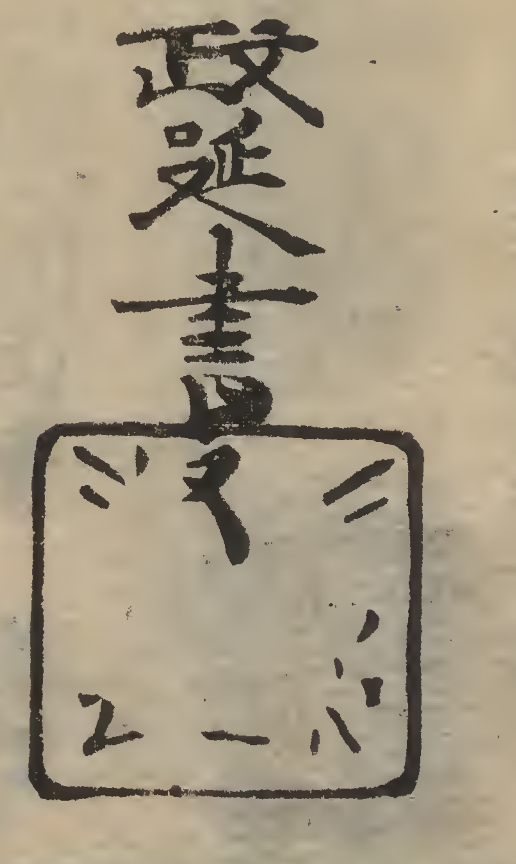


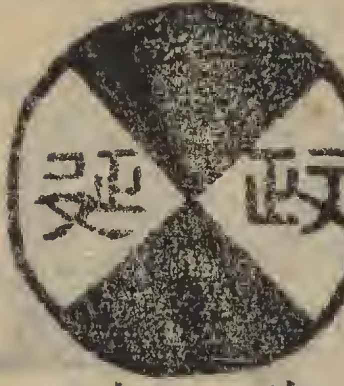
政尹

竹深留客處　荷浄納涼時



同 政恒 初名政延後改正信又改政恒

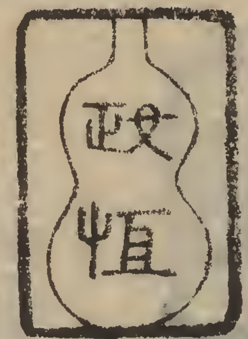




政延



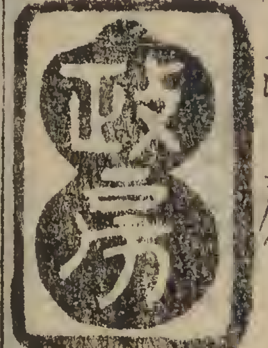
正信



政恒

同 政房 号安常及花伴



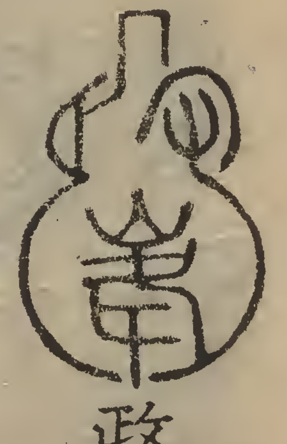


政房



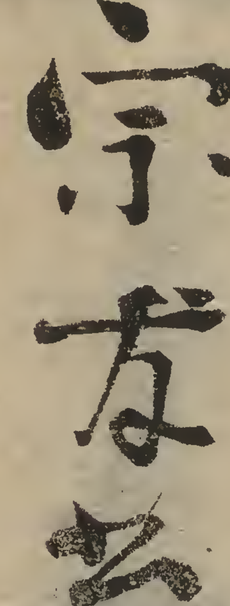
花伴

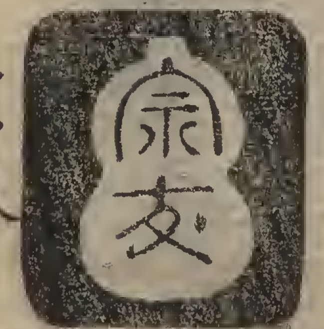
同 政峯 号幻名重次郎



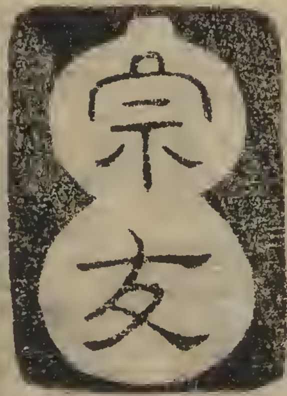
政峯

同 政方 号長松菴法名宗支





宗友



長松庵
宗友書之

政方

同 政昌 称圭水 政方之長子

桃花源裏人家

政昌

同 政栄 称関平 政昌之弟

政栄

不昧雲州侯 号大円庵 及一々斎 又宗納

不昧書

不昧

山々雲

宗納之印

宗納

一々斎

同 月潭族 号蝸菴 又宗潔

月潭書

宗潔

露滴

月潭

蝸菴

月潭

酒井宗雅族 号一得 及拂袖

一得菴

宗雅

琴流

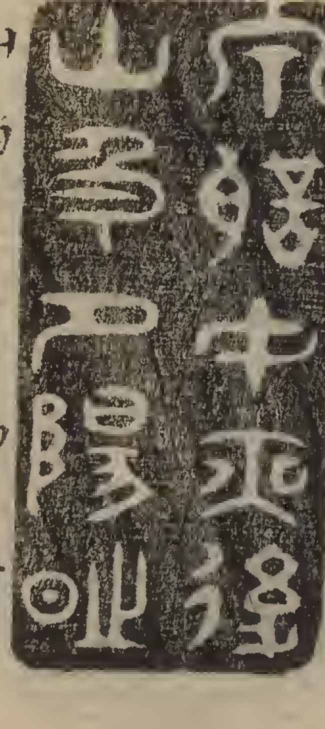
宗雅

拂袖

一得菴

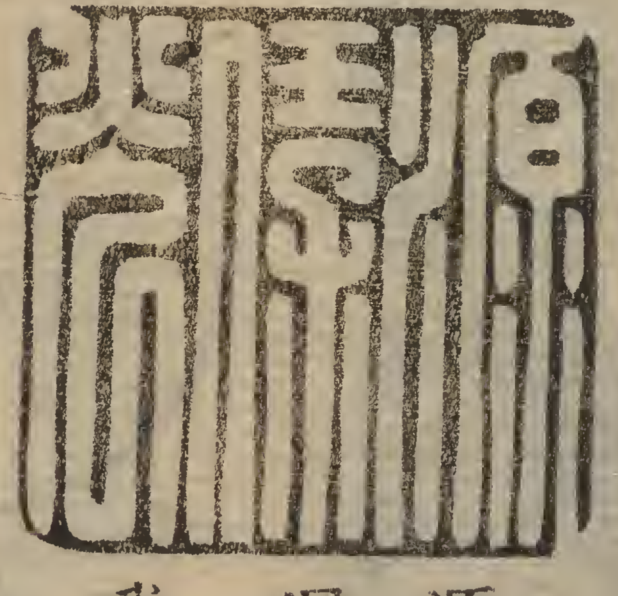
焼印

柳澤保光侯 号獄楽庵 及堯山

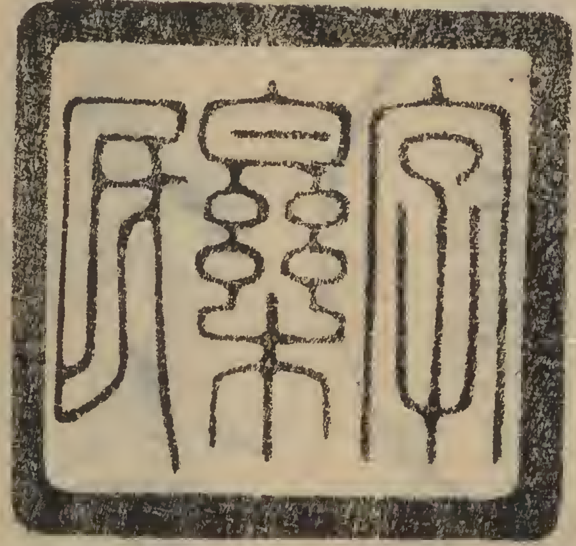


泉皓中夜後

山浄夕陽時

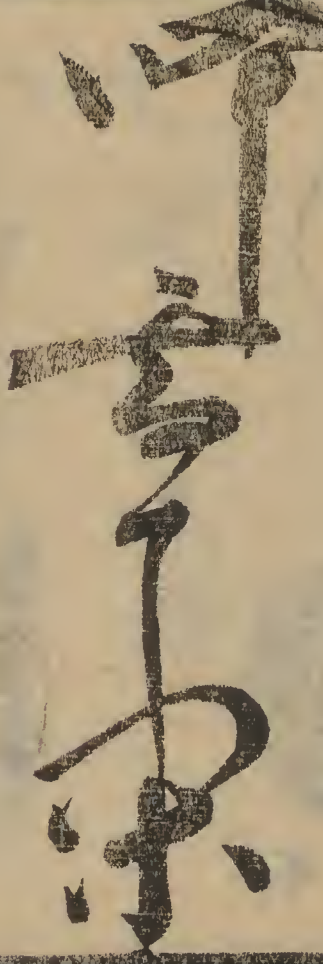


源保光



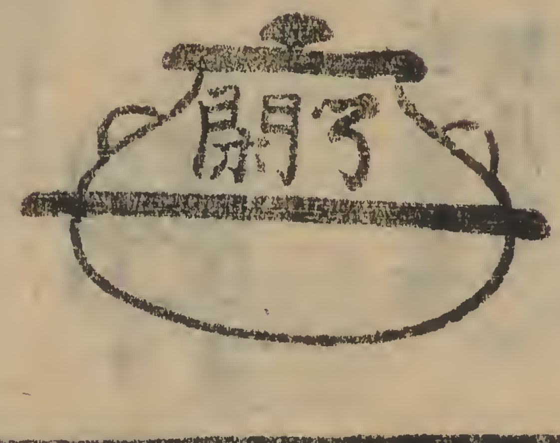
字楽民

三宅康高侯 号吟雪庵 及了閑



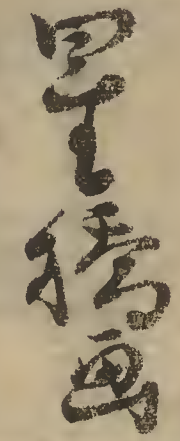


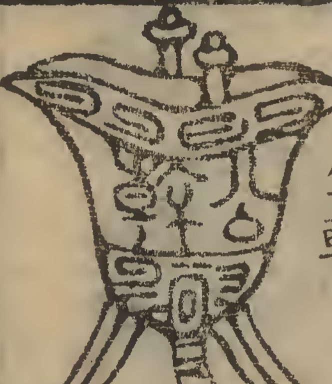
三宅



朽木綱貞侯 号寂了庵 及星橋







公幹

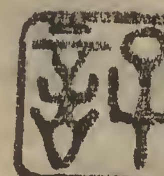


綱貞

同 昌綱侯 号龍橋 及宗非

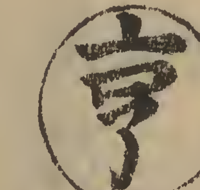
竜橋寫


朽木 昌綱


子言

田村資侯 在不滯庵 馴月庵 蛍雪庵

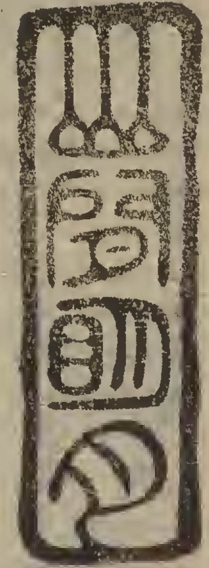

不滯菴



片桐宗幽翁 号一法菴 及実斎

七十二翁
片宗幽
謹書

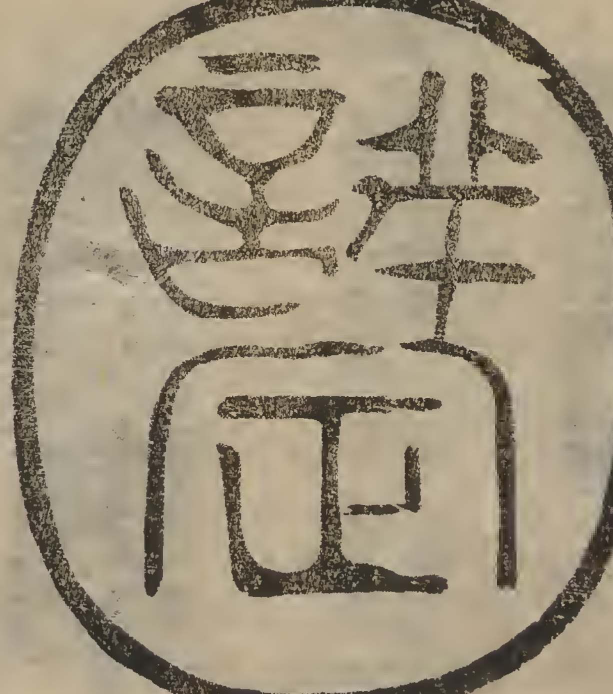

實斎


山間明月

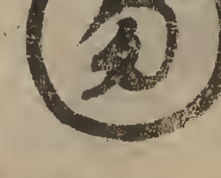
相阿弥


印文不可知

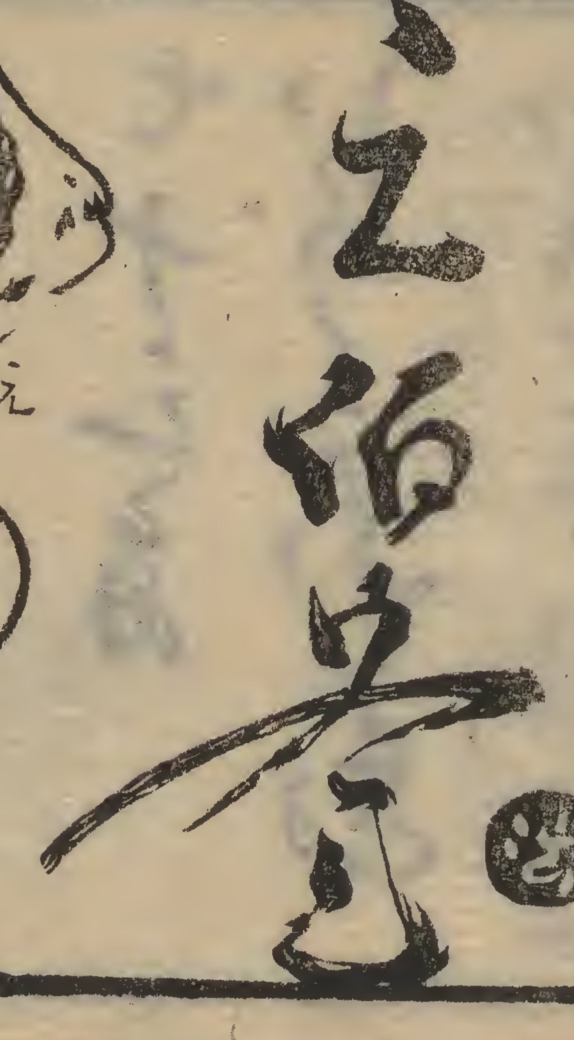
千利休居士

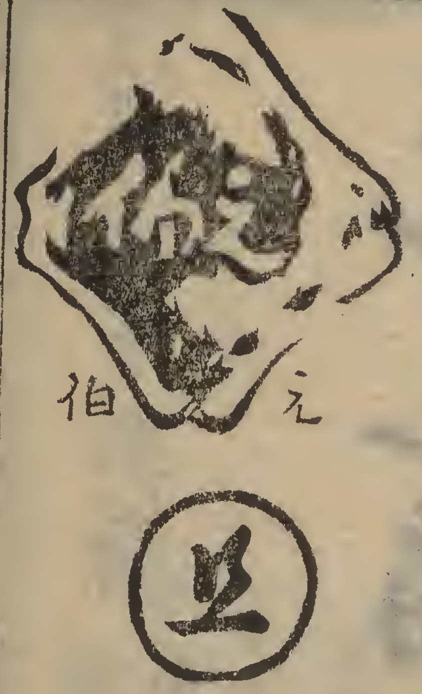


詳定

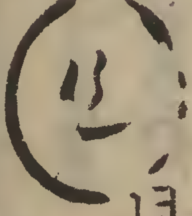


元伯宗旦 号隠翁



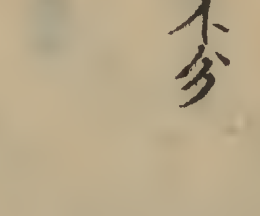


元伯



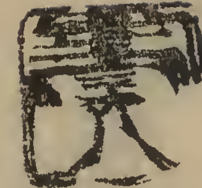
伯

良休宗佐 号随流斎

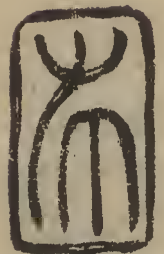


印中不分

原叟宗佐 号覚々斎

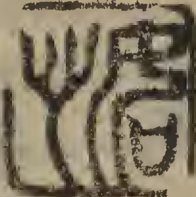


覚



佐

天然宗佐 号如心斎



如心



件翁宗旦 号呼啄斎

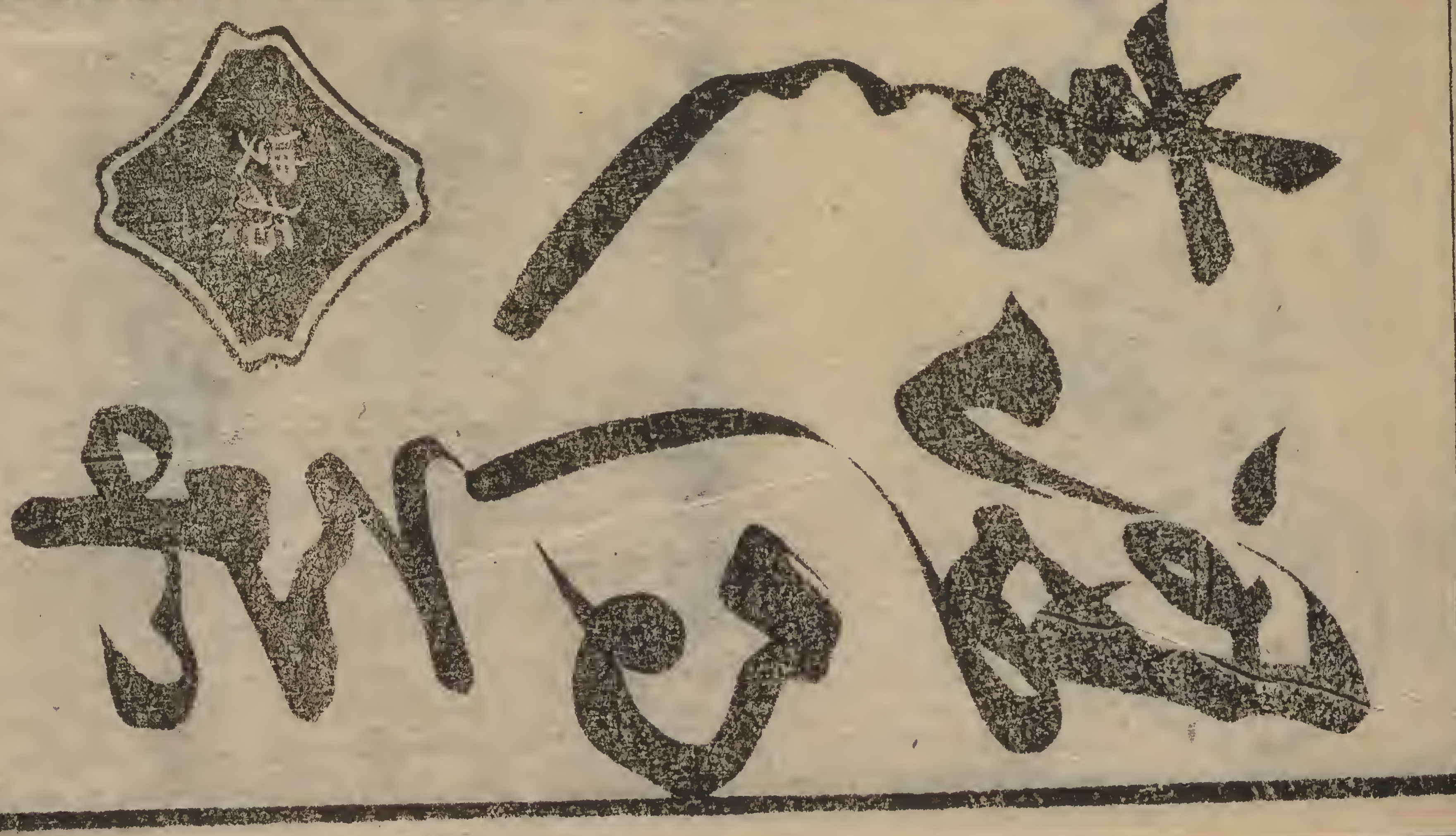
呼啄

好雪軒宗佐 号了々斎

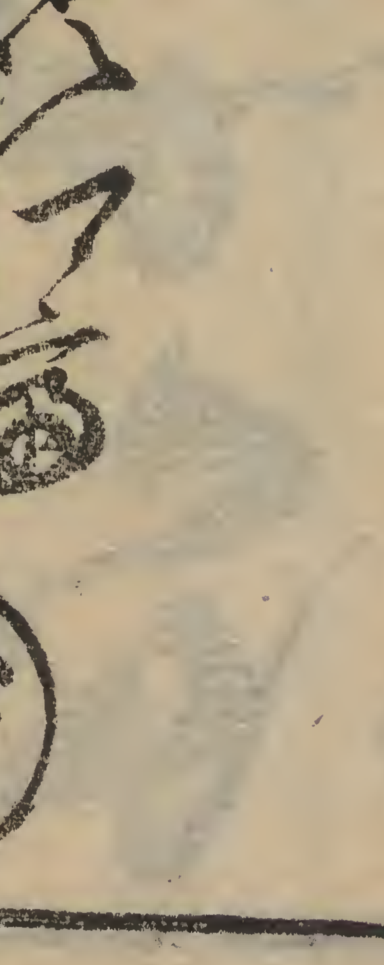
石翁玄室 号不見斎

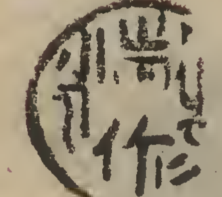
審

柏叟宗室 号認得斎



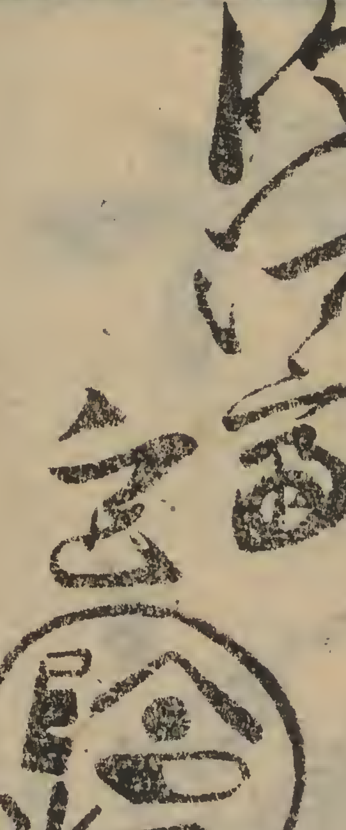
甫竹　泉州堺住

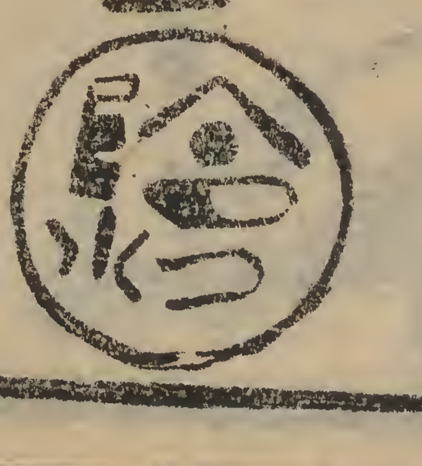




甫竹

里村紹巴　号臨江斎

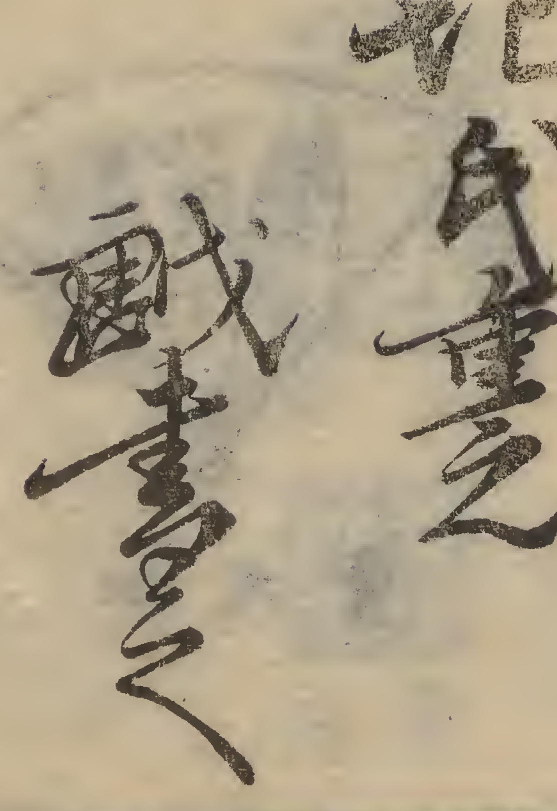


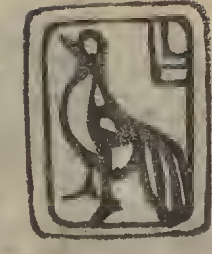


臨江

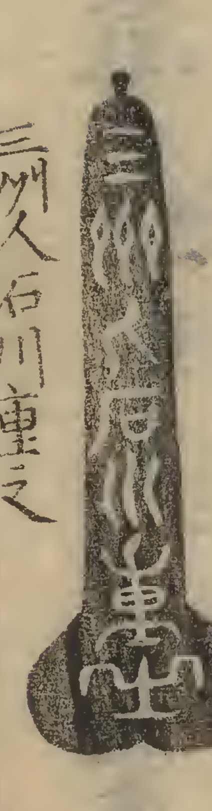
石川丈山

丈山先生印章詩仙堂誌及摺印甫正等ノ諸書ニ悉ク見ル今此ニ出セルモノハ印譜中ニ載サルヿノモノユヱ斯ニ出ス





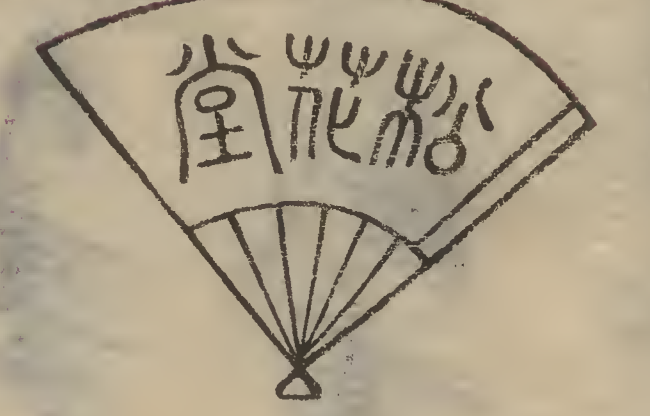




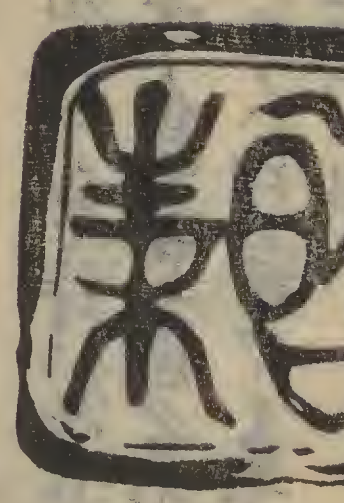
三州人石川重之

瀧本坊昭乗 号松花堂

捃印甫正等ノ諸書ニ出ス所ノ印章ハコヽニ載セズ

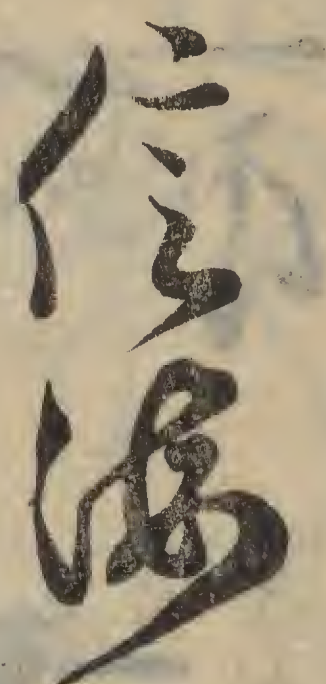


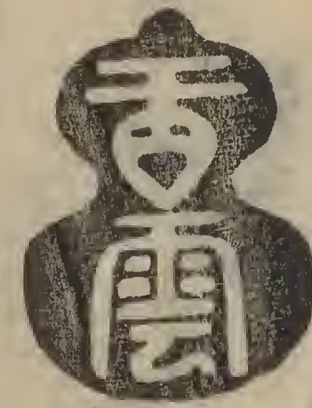
松花堂



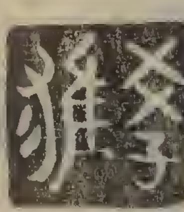
昭乗

豊蔵坊信海 名孝雄

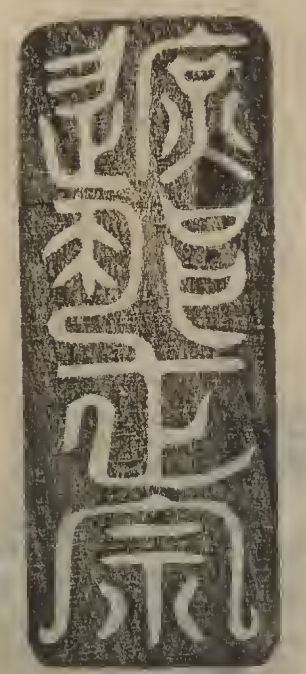




玉雲

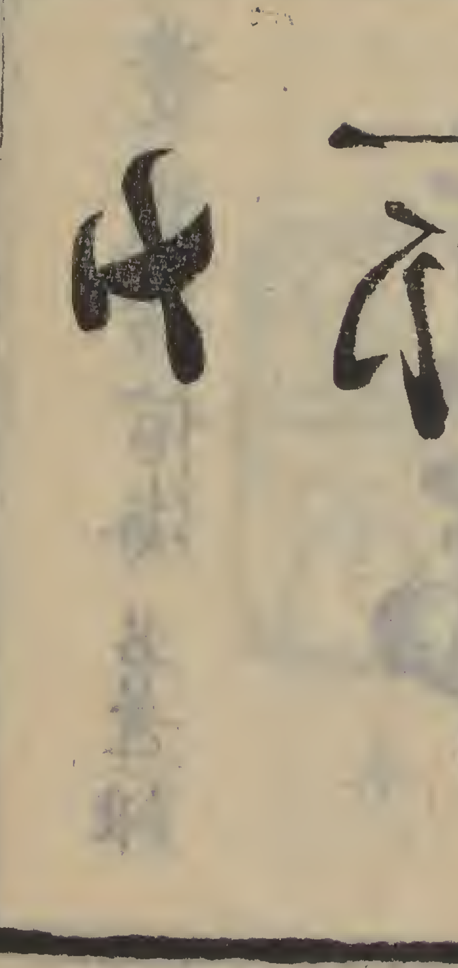


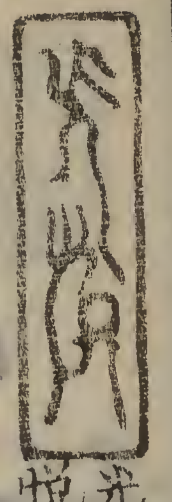
孝雄



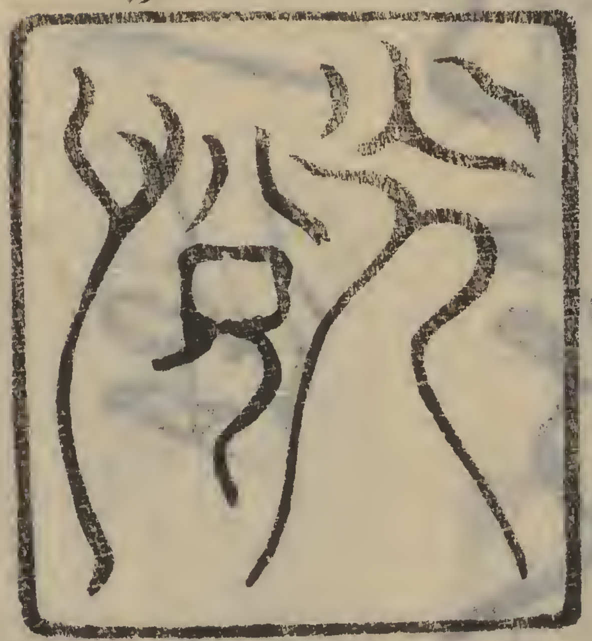
遮那正宗

本阿弥光悦号自徳斉





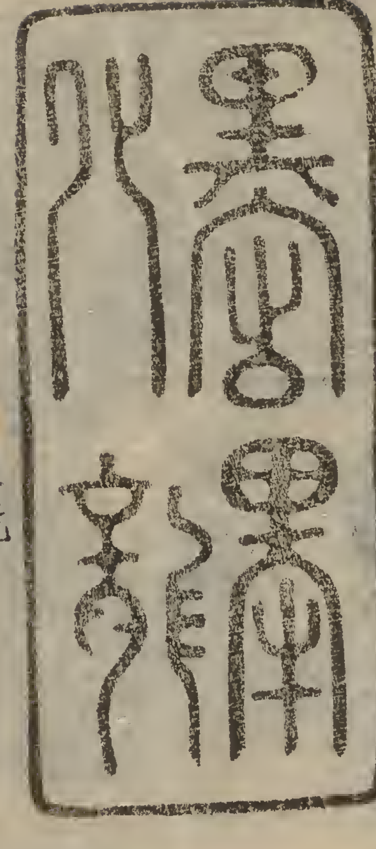
光悦



光悦

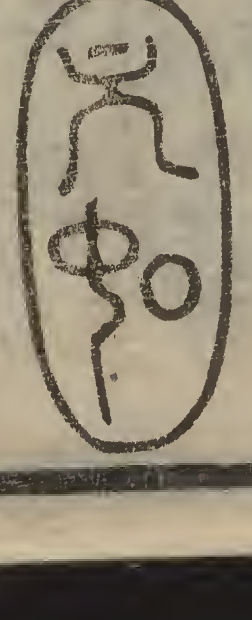
和漢印尽所見印章鹵莽不堪観因出其正

同 空中斎 叙法眼

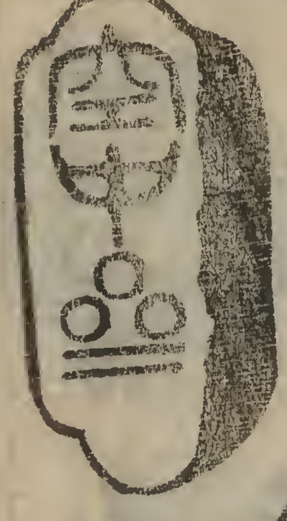


點墨

化龍

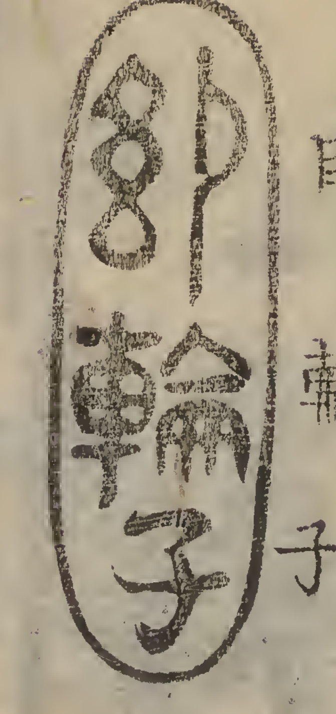


元如

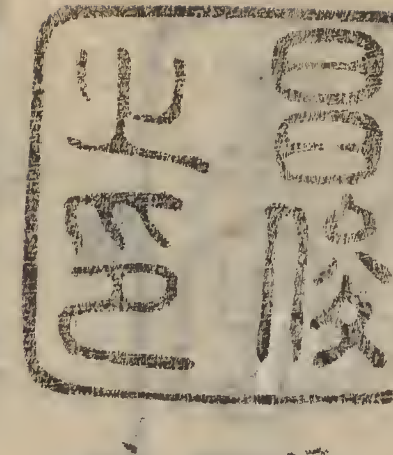


空中斎

佐川田昌俊号臥輪子

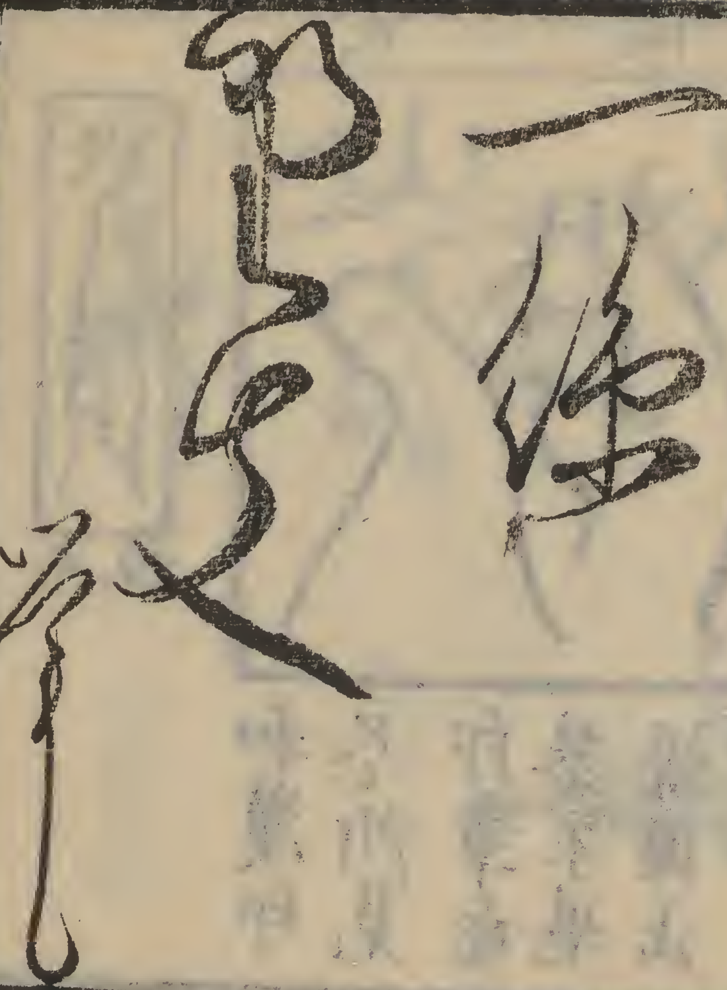


臥輪子



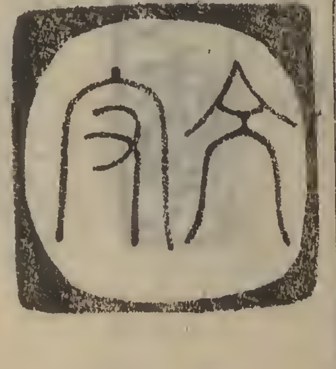
昌俊之印

一絲和尚名文守号丹山





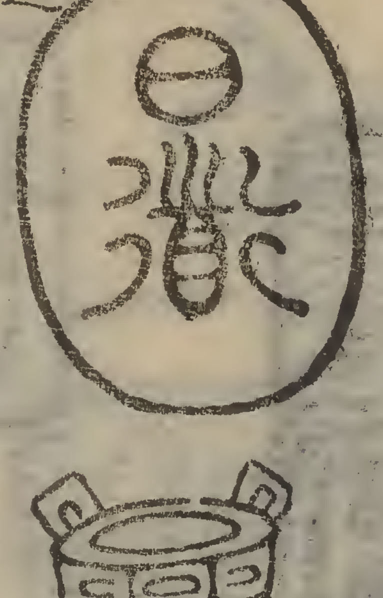
丹山



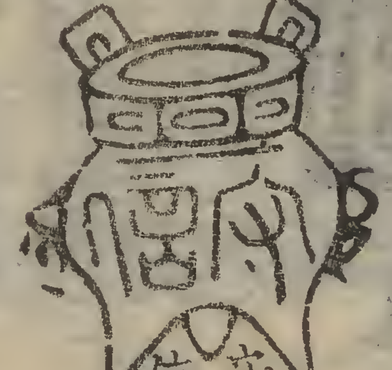
文守

探幽斎法印

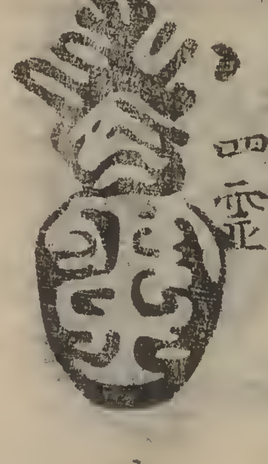
狩野守信



日道



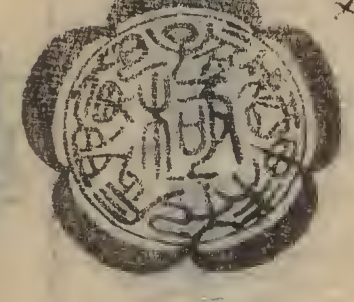
守信



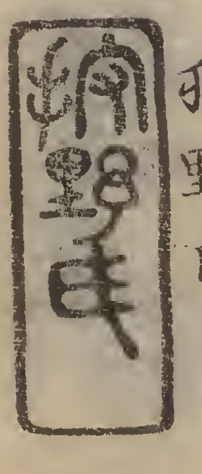
四霊



蓁

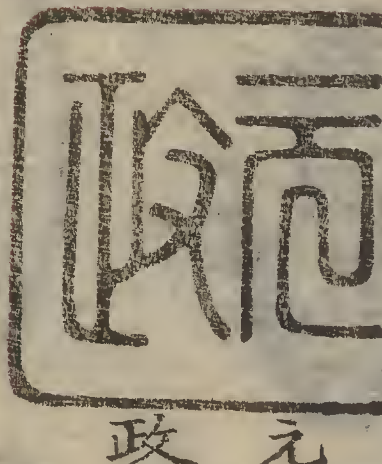


十二支極

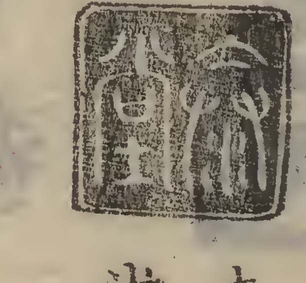


狩野氏

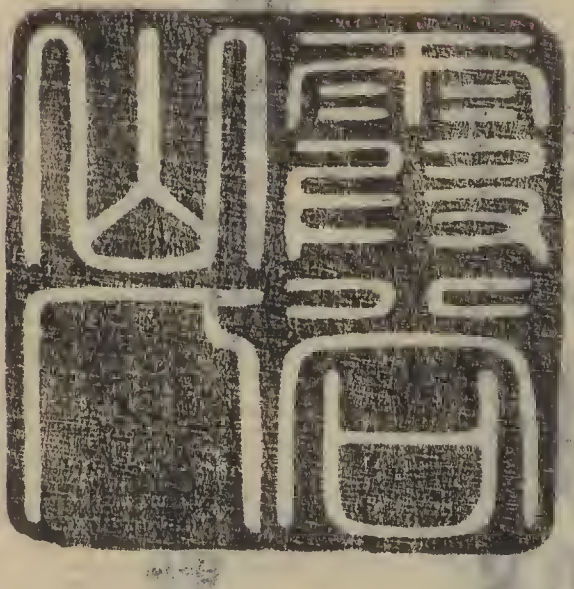
元政上人 号泰堂



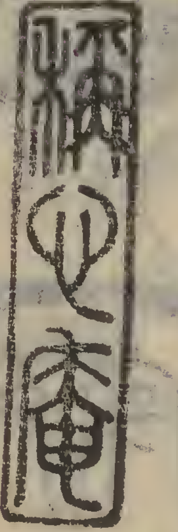
元政



泰堂

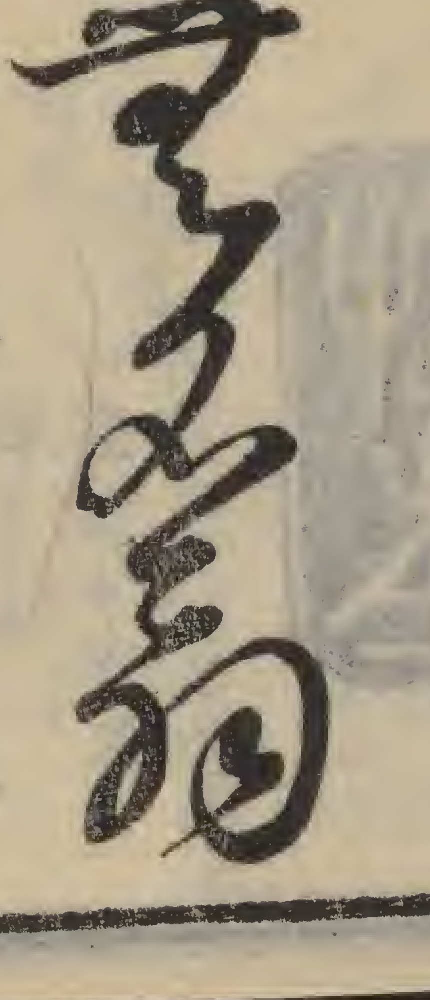


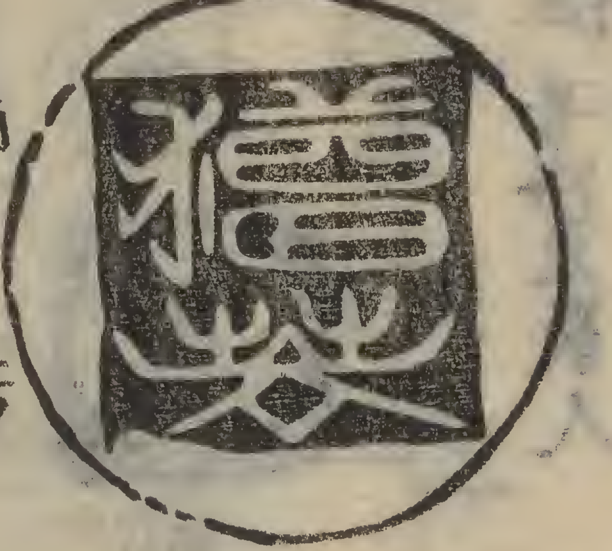
霞谷山人



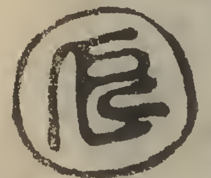
称心菴

岡本半助 号無名翁



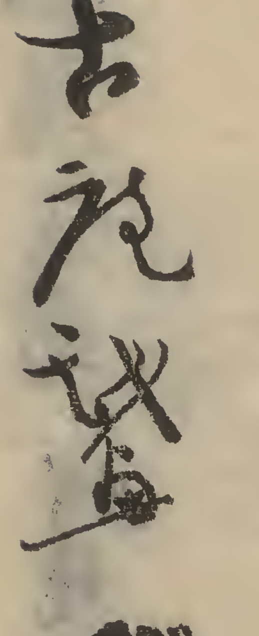


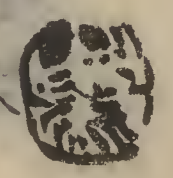
猶芳



辰

淀屋古庵 又

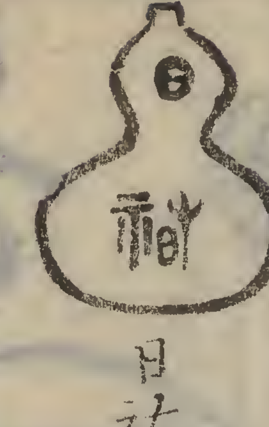


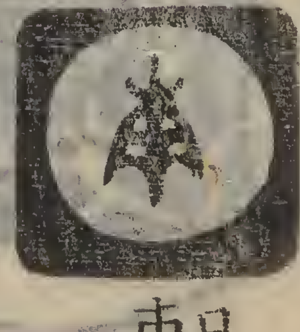


珍

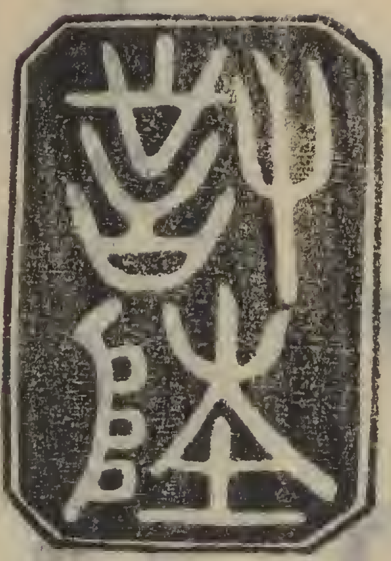
雛屋立圃　号鏡山

立圃　日祐

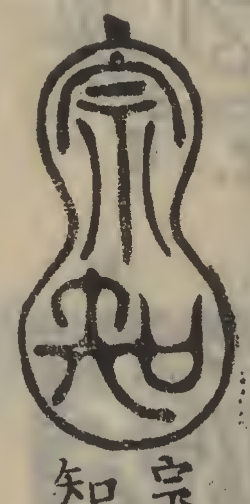

日祐


日甫

三谷友佐　号洛東散人


對陸

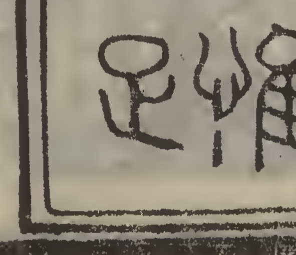
縣宗智　号玉泉子


宗知

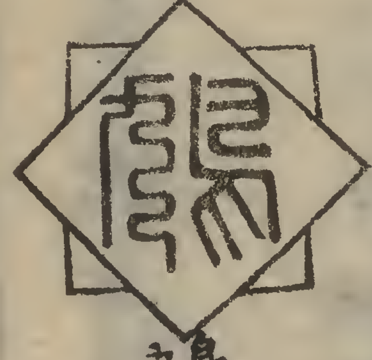
吉川惟足　号視吾堂受茶法於千宗旦神学也

相山隠士惟足

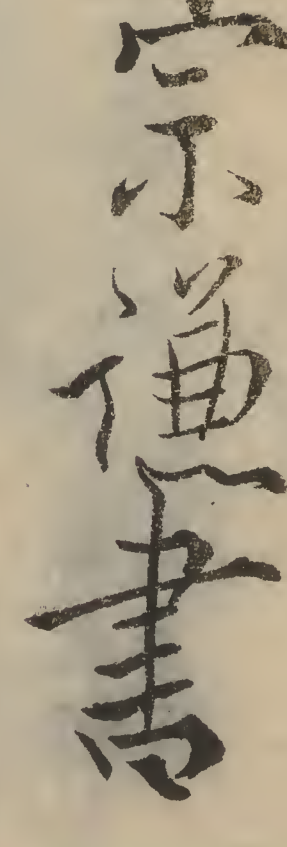

視吾堂
惟足

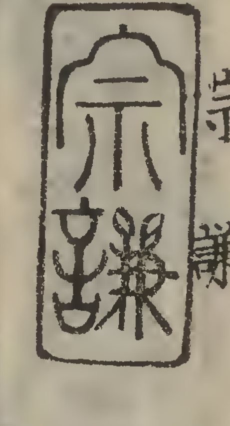


遠藤元閑　号廣長軒多著茶書

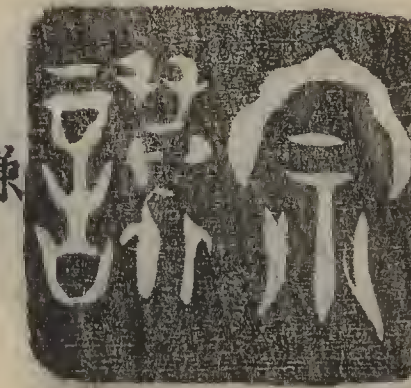

鳴九

緒方宗謙 号浩斎



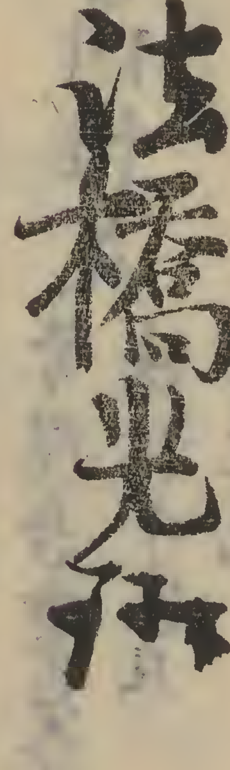


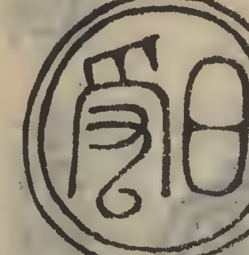
宗謙



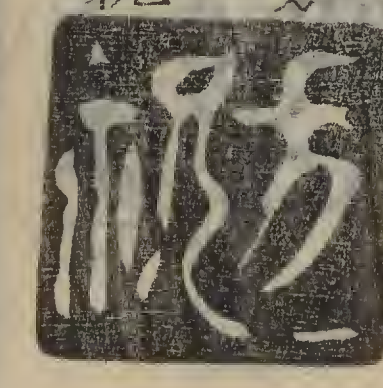
宗謙

同 光琳 名惟冨又号方祝 初名日受





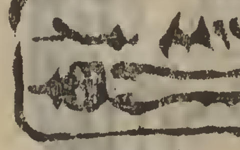
日受



方祝

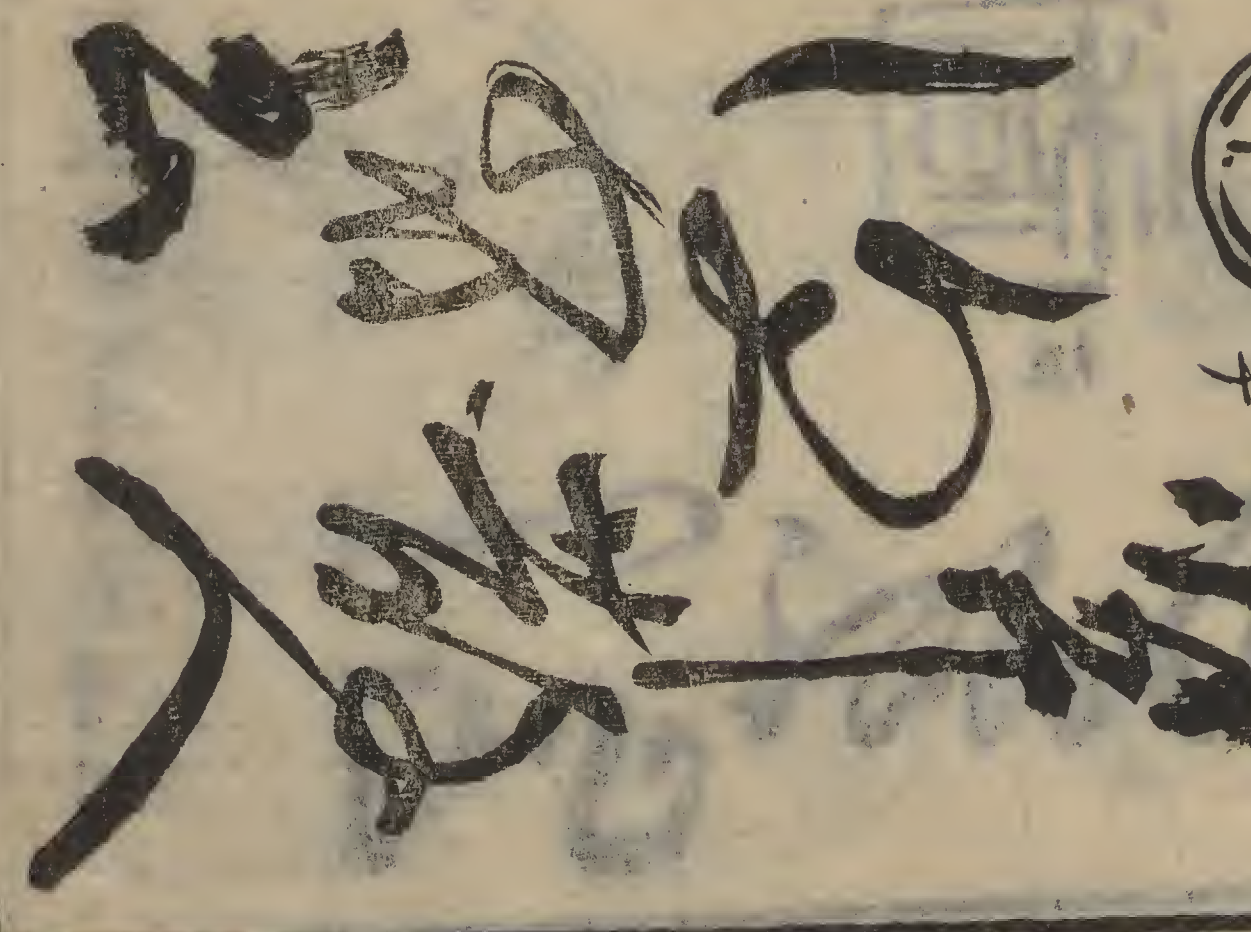
同 乾山 初名権平 号習静堂



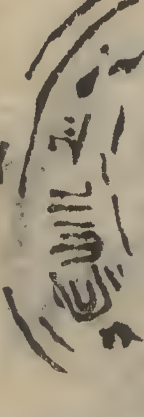


耕禅

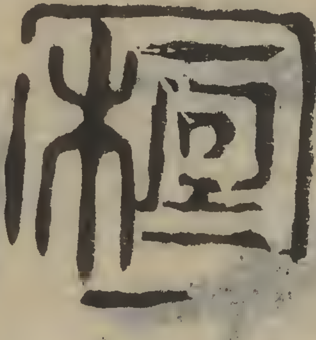
傳古子



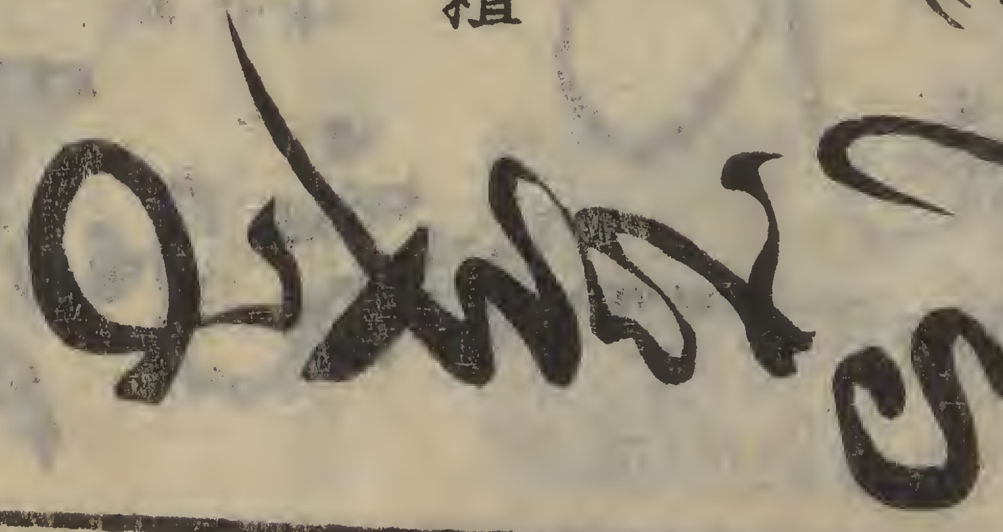
杉木普斎 号瑞夢子



不分

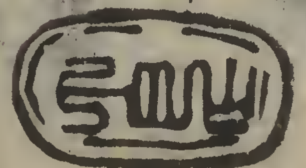


桓





普斎



三宅七羊 号松明



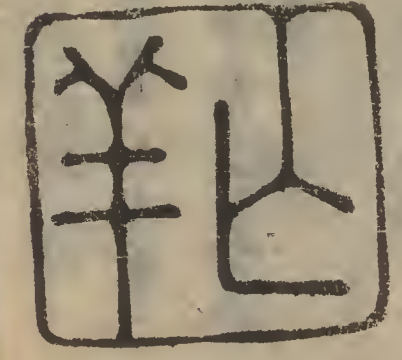


松明

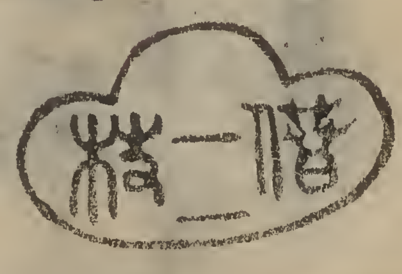




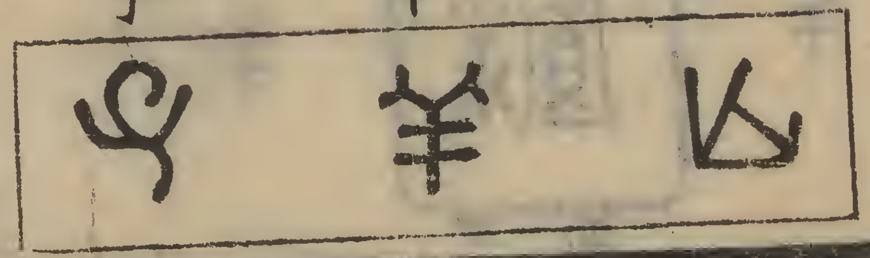
亡羊



借二枚

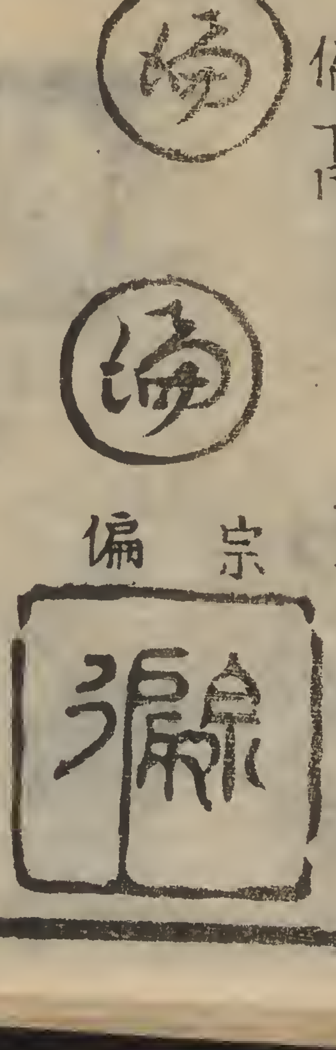


亡羊子



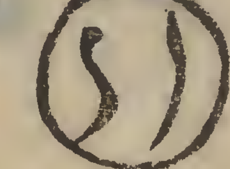
山田宗偏　号不審庵　周学山田家世々有不審庵之号

偏　下同


宗偏

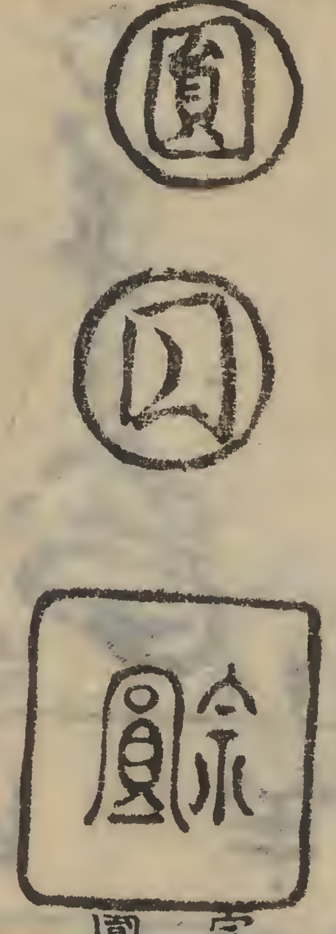
同

宗引　号留学


引

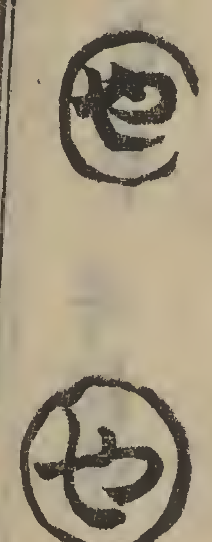
同

宗圓　号紅学

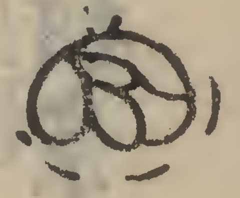

宗圓

同

宗也　号漸学

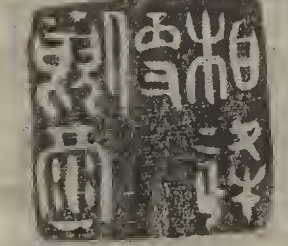


通圓　名政房



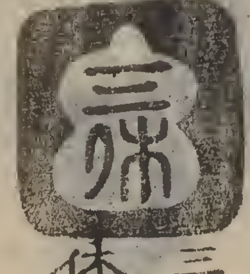
志村三休　初三柴　号無事菴

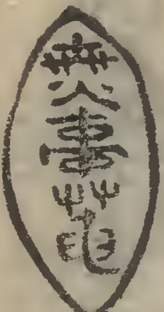
無事菴宗


相逢便飲

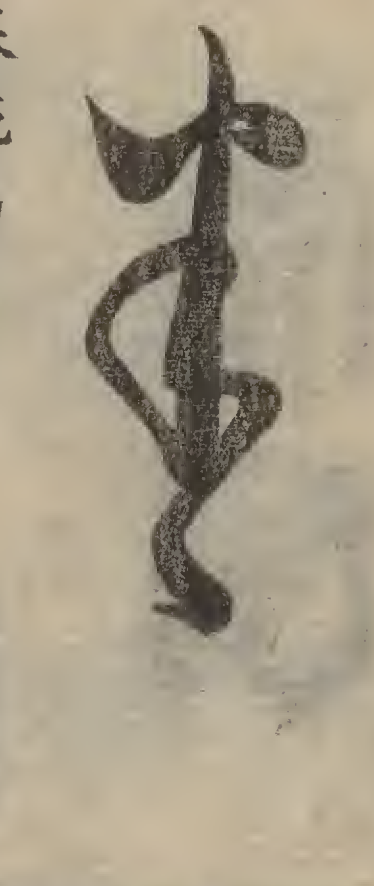

志氏

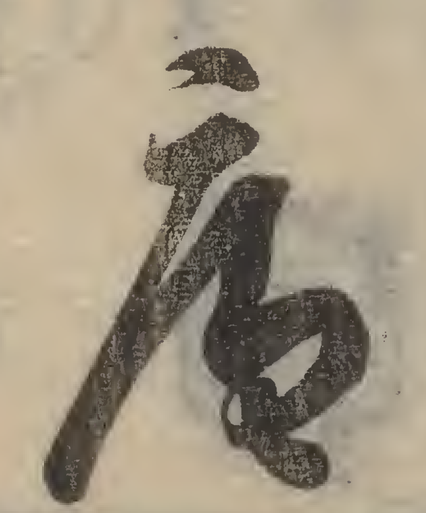

三柴


三休

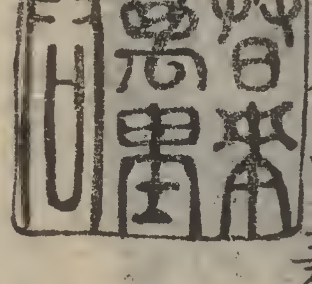

無事菴

伊佐幸琢 号半々庵



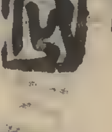


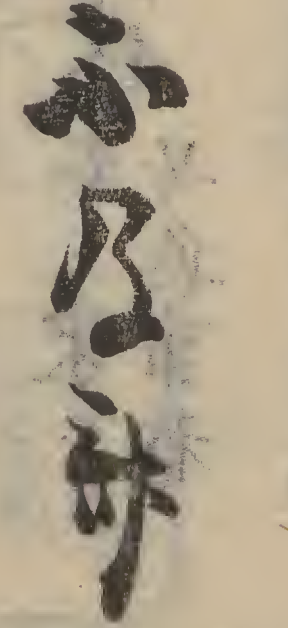
春花萬里君



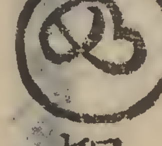
久田宗也 号不及斉

長





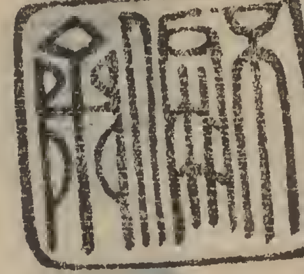
岡村宗恕 号時習軒



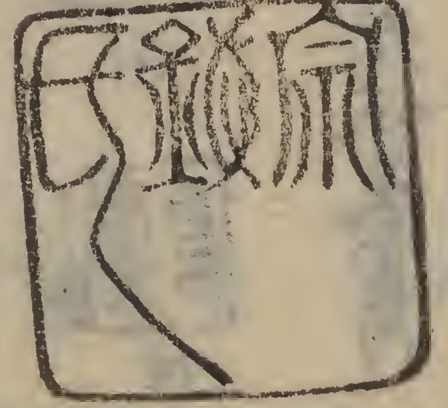
如

三谷宗鎮 号不偏斉
儒伊藤東涯門

不偏斉



宗鎮氏



櫻井宗休 号南溪

櫻井宗休書



南溪

四方庵宗徧

宗
徧

慕庸軒観山 号寥々庵

芳
元
隆

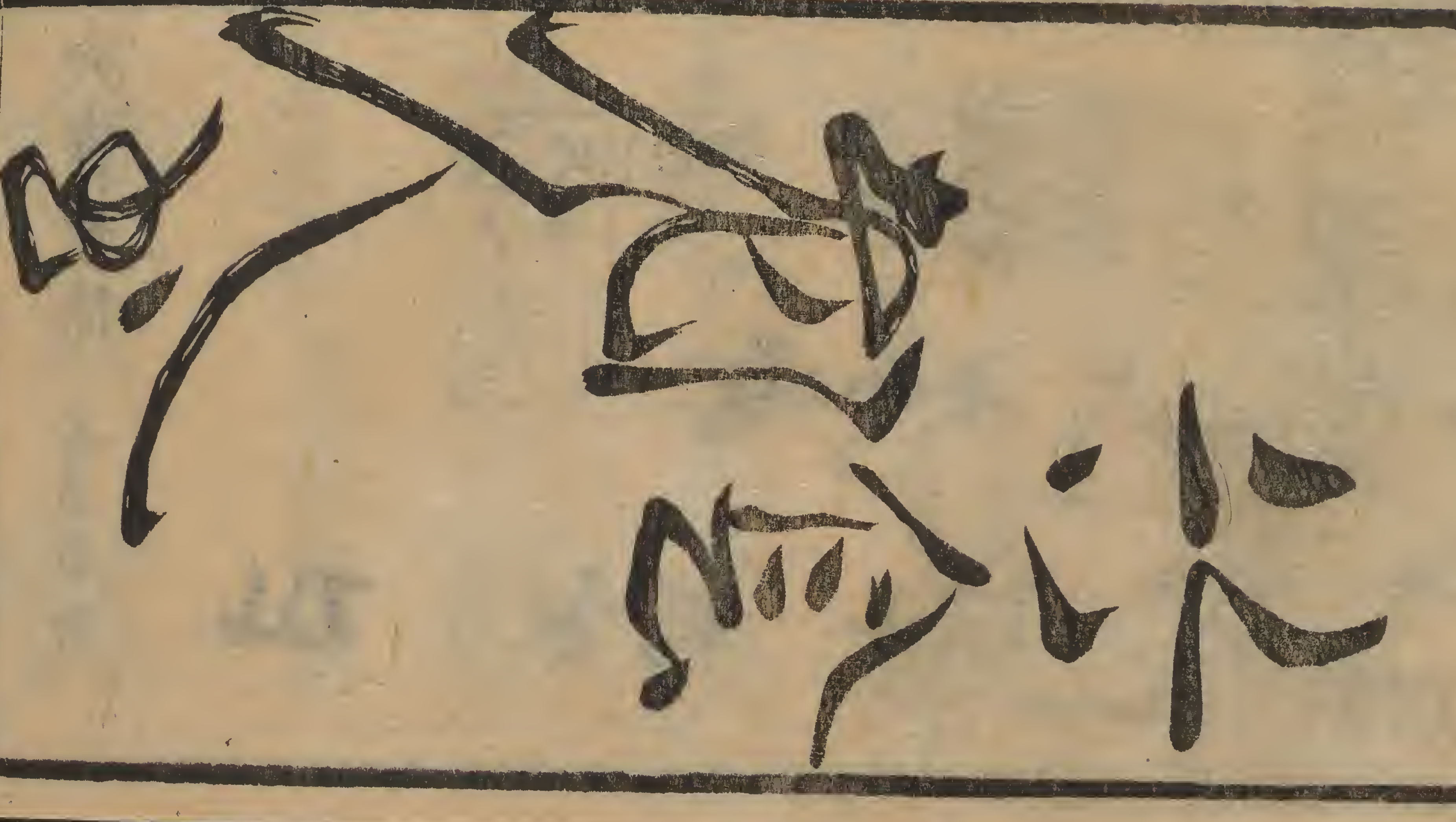
田中圓斎 号光休及當向

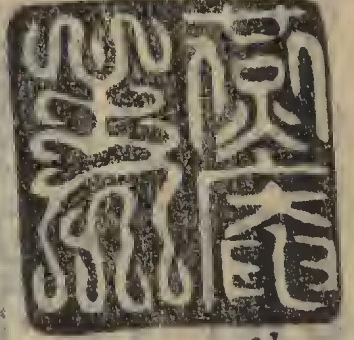
光休之印
當向

大森杖信 号甘古斎

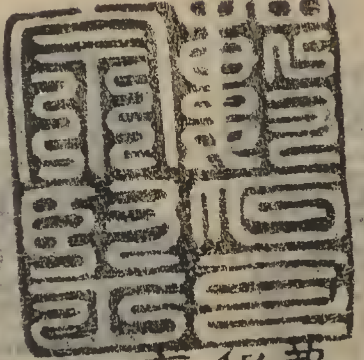
人生一樂
杖信
杖信之印

藪内紹智 名宗堅号燕庵
及竹陰

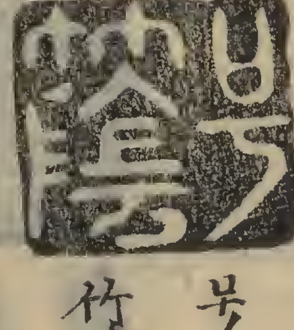




燕庵
主人

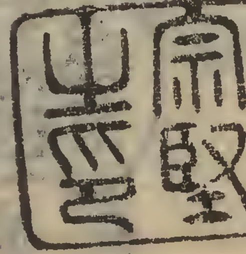


藪 印 宗堅



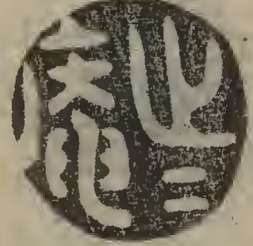
号
竹陰

宗堅
之印

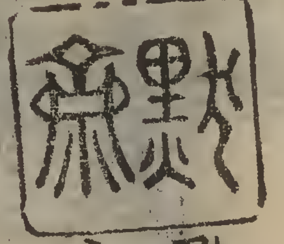


号佐美黙斎 名昌益

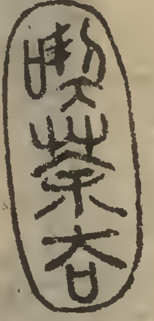
いけ一筋とく糸



止々
庵

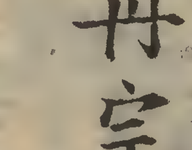


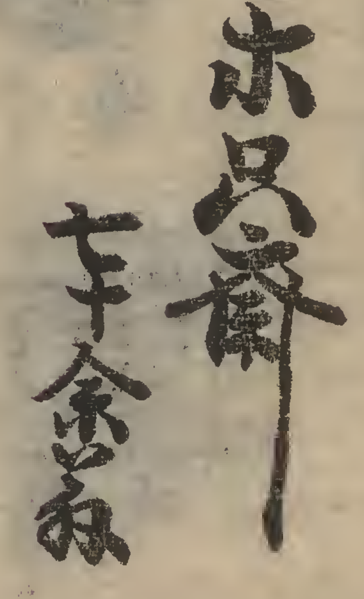
黙
斎



喫茶去

松尾宗二 号楽只斎

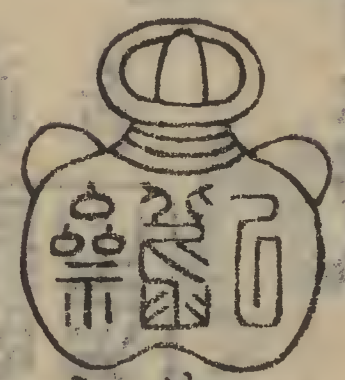




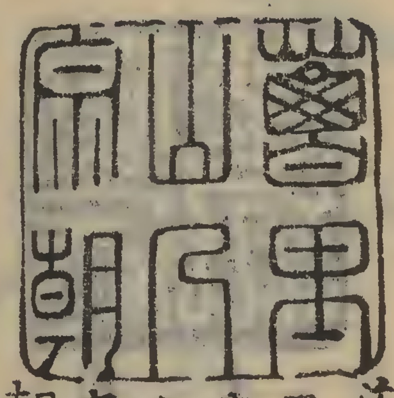
伊丹宗朝 号黙守庵 及萩軒



萩軒



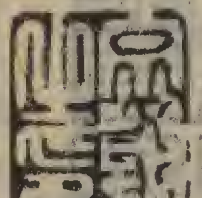
以舊弁



葛里山人宗朝

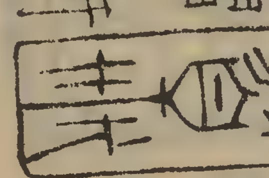


黙守庵



宗朝之印

神谷松見 名久圓 号時習軒



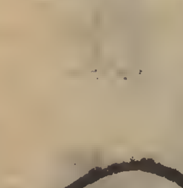
時習軒

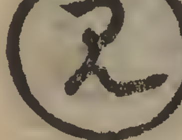


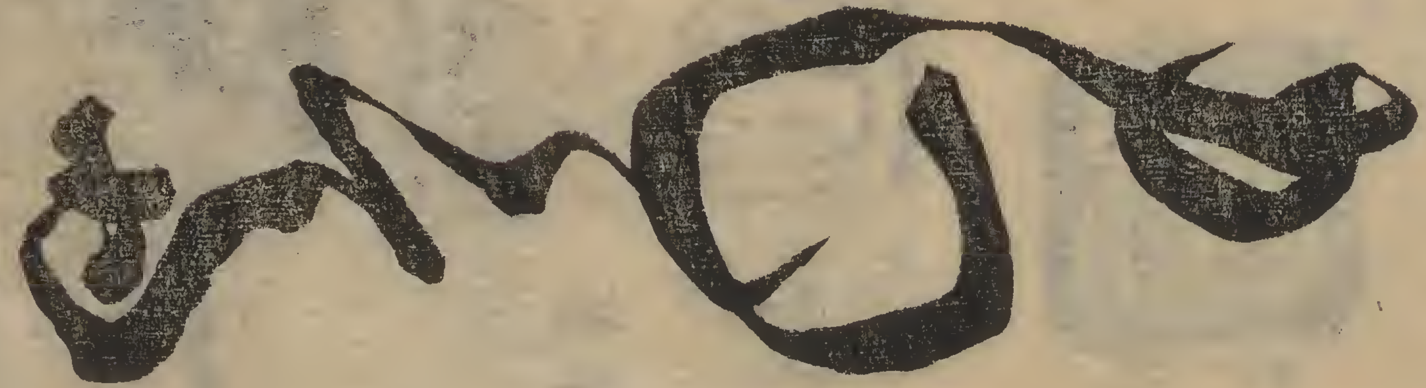
松見



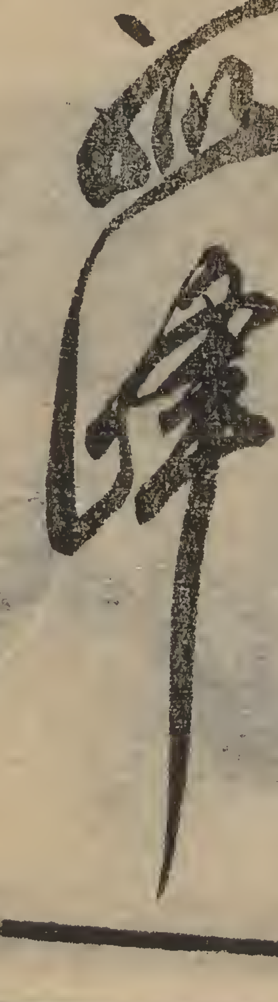
久圓

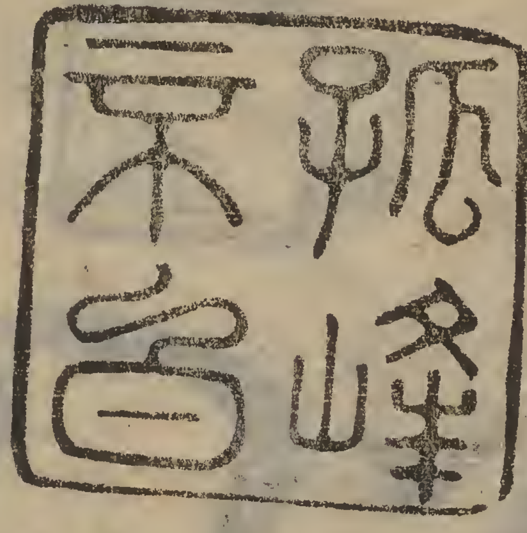




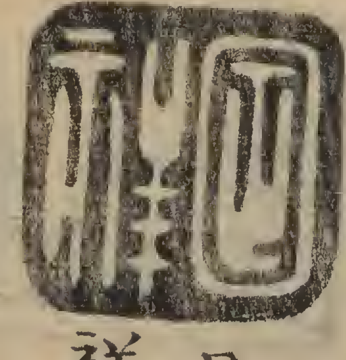


川上不白 号孤峯 及田頓斉





孤峰 不白



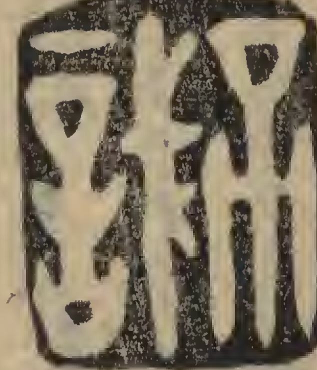
日祥



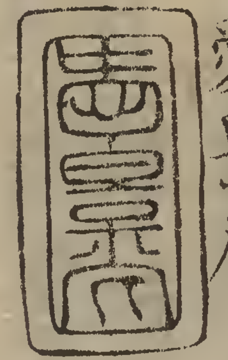
不白

同 宗什 号一指亭

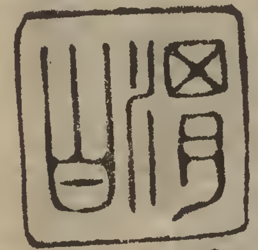
同 渭白 号亭々庵



子識

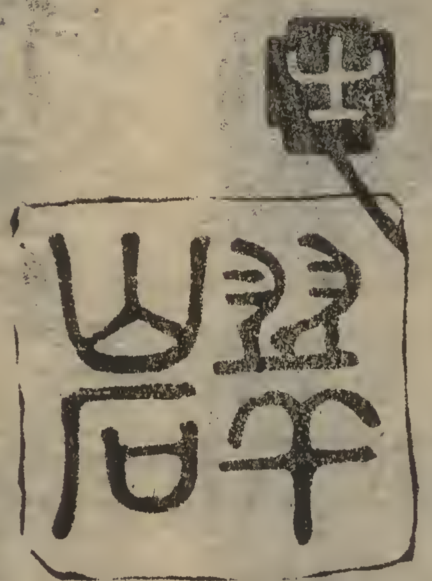


愛景居



渭白

翠岩宗珉 号寸松子



翠岩

藤村庸軒 名當直

當直

庸軒

庸軒も茶道にふかく好めり
まことしく古蹟をもとめて
うつし作る器も此の家
載まる也又古人多くを
こともいまだ見ぬ事を
さへ見とゞくるものなり
この後人其の高恩を
あふぎて見る事を
学ひつへき茶なりなん

○香合品目

香合ハ茶具の中にて軽きもの
として利休百會ニても香合の
出ることなし かゝる軽き器ゆゑ
もまた少しも其品にも多あるを
いふ 堆朱青貝なとにかぎる 張成
楊茂 周明らの三人名人なり
これを堆朱の三作といふ此三作乃
外に 張源 錢彌 呂甫 金甫
王円 王賢 印堆の七人は元と
明との間の人にて都合十人を
堆朱の十作といふ

○剔紅 地ニ錦の如く水をひく
わちがひなどの彫ありて
上に紙なる其の彫あるは赤く

○堆紅 いろ赤くしてあつく厚
みあつて彫目ふかき
品あり

○堆朱 いろ赤くぬりあつきなり て剔目ふかきもあり 節なし

○金絲 色赤く彫めぐらしたるの 文字の節多く又深く あつし又上塗黒きもあり 黒き糸といふ

○稚金 いろ黒きも赤きもあり 剔目に金をつけたるなり 沈金ともいふ

○紅華緑葉 花を赤くし 木の葉を青く すりなしたるは深きも浅きもあり

○珪璋 色黒く彫めぐらし 文字の節一ッ又二ッあるもあり 赤地をあく塗るもあり 地紅の珪璋とて重宝す

○存星 地に細き文字などを きざみて沈金をなしあり とぎだしたるやうにして上腰は 耳に節なし

○犀皮 色黒く剔目ひらく浅き なめらかなること書きのごとく とんぼうなり

○堆鴈島 桂がたの黒くして地の めうまかなり耳節も 黒く黒くて あるかなし

○堆漆 堆朱堆紅の黒くして 地のめうなり耳節 赤く

○玳瑁 まき絵なり

○螺鈿 すりたる青貝のことなり 細かなるを花ならびといふ くろのといふ

○角朱 まき絵なりいろく補も 延庚出羽庚山中氏々 西前角にして蓋のうち朱牛の漆 うちそとわりいろく白き出たり 白星例なるんとこう

○桔梗 ○木瓜

○一葉 ○木葉形

いろかも沈金のほかに七宝をあしらふ 唐人の持たる手をとらしたる

○蜜柑 ○袋鼠

○大鷹桃 一種のうりの様のして 大きさもとからも合す

○閑扇。○木魚
○獅子 ○角 ○丸
○裏白
以上七度より後代をうつし
南宗寺蔵とも以上
此外深作判なし又名目は
ことにおほく出くされとゝ多し

○楽焼七種之外
名物茶碗長次郎作

○雁取 利休居士この茶碗をと
ある方へ送られしに返歌
ことおもひて利休よりこそ送りけり
申しゝ大くろなれやさうらう
猿宗旦ちんみつてとらんとへ
これより名付しとて茶碗を
利休の判あり

○太郎坊 赤 利休好
世にこの坊へおくりし
よりこの
名あり

○次郎坊 赤 名義上に同し

○ゆきもち 黒 宗旦銘
○中黒 ○僧正坊
○小黒 大黒を引きて 宗旦好
○再来 ○一文字 赤
○桃花坊 宗旦好なりしを利休より又桃の字あるも
つける
○めをと鳥 黒 宗旦銘 一名 貧僧
○ちとの坊 ○挽木鞘
○鹽器 利休好 ところの刷目
○聖 赤 目五ツ ○平茶碗 黒 利休好
○横雲 赤 ○面影 針間のある ふちをはなそ銘
○猿の子 黒 ○枝拂 赤 宗旦好
○風折 黒 細く 宗旦銘あり ○小狐 赤
周之云宗入作之太郎次郎作よりは
二代の茶わんあるも手取の出来
なり手家なれとそいふ

○炭取

○唐物籠　竹組　ト組あり

○和物篭　竹組ハ利休形を
有る長庵ハ石州
なな啐啄斎好ニ籐巻もあり
あり卜とく／＼るいハ宗全好

○菊繪縁高　利休形
正親町天皇へ上ル献の写し
杉木地

○瓢　手付ハ元伯好

○神折敷　一閑張大ぶりハ元伯
小ぶりハ原叟好

○葛桶　一閑張元伯好大ぶりハ
そこに籐なし
深し小ぶりハ底ニ
籐あり浅し

○炭臺　桧　利休好

○桑箱　利休形より
元ハ宗旦好
つそ羽をそへし
とも

○炮烙

○甕蓋　南蛮物の蓋を取りて

○鳴物。備前。信楽

○楽素焼　宗旦も利休好

○同茶掛り　利休好

○同焼抜　如心斎好

○同のんこう　素やき茶掛りを

○同内茶　啐啄斎好

○金入　了々斎好
善五郎作　宗全入

○灰杓子

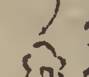
○桑柄煮黒め込　利休好

○同　竹木地　少庵好

○大判形竹ほそ　宗全好

○赤楽焼竹皮巻　長二郎好

○風炉

○土風炉　今の風炉よりハ後世也　なれ共格好よきもかす
うひとうつをありのくの
よく柄をもかぎひハ字を合を又
さかりをもてふうてあるを侘を
ふんだおかなり

○透木風炉　もとハ透木をかけし
陣笠のこと

○紹鴎風炉　古への風呂ともいふ
紹鴎の時代より
盆ともみて出来る所まて古への風炉
よふありくハ是よりふうりうなく
大なり上の面さ風皇ふろを口し
りまとも紐足あり

○九釜風炉　大小とも利休好
紐足あり

○尻張風炉　口上

○阿弥陀堂風炉　口上

○四方風炉　口上　大ハ眉なし
小ハ眉あり

○鶴首風炉　利休ハ芦屋作
名物の八寸余の

形くびりまふ今の仕好あり口角を
今のつりをきハ風炉の格好おし
あるうし眉あり
紐あり行

○道安風炉　紐足ハ道安好
いかもの茶道具なり
しやかりずもかきずハ大ちうなり
少庵所持お巴蓋のうまハ道安風
炉のかたちなるに
まよし

○雲龍風炉　大小とも利休好
紐足なり

○達磨堂風炉　宗旦好
此寺堂の茶室に
宗旦好みて風炉の
ようにつくり出せしあり

○面風炉　大小とも利休ハ
何れの寺も面白
小のかた如心斎好にても紐あし
如心斎好ハ行にて手つよし

○金風炉　今さかへ宗和兜
面ハ紐足異品なり
南浦紹明もろこしより字名を福ちよう
大徳寺さく伝来のもち台子の具
大のかたち胴ハ手付風炉の様
付白磁もあるわすす

○鳳凰風炉　江岑の女を紀氏
の廣中ふ妹せし

もしときに居る其子の風炉を好
まれところのく座敷の菓子を
出せるを後田公おもてに用ゆり
なりとは居るもてなしく千家ハ座
ゐふしつかする田公ハや風炉の
手本を写しその菓子猶ハ薩摩屋
の名物となりしを後に見るて写を
製す風炉のかたちハ甘露の風
炉の風炉を金乃とりつくろひたるも
その頃原叟百個を造らせ用
ひられしを今のちとまで用ゆらう
おほくハ宗旦好と申て宗旦ハ四方庵宗守
を製しらう

○琉球風炉　原叟ハ琉球作の風
しらる　炉を田口公を製

○鐵丸釜風炉　与二郎作なりとも
利休の所持に出る　少々ハ千家好ミ
肩衝とよびます

○同道庵風炉　千家にては宗
旦好みの形なり　啄斎ともいはく
ゑもよりのちハ少しかはりたり

○鬼面風炉　ふるき形なれども
千家にては宗旦の好
古き宗旦のつくり好む
片かは付きの好と申すもの多きなり

○食器之部

いにしへより書院なりしを
利休よりあらためて茶道にもちひ
ひしよりのち今ハ茶の湯に用ゆる
にも利休の好みを用ひる
ひさし

○黒塗丸椀　坪平付　利休好

○同上り子椀　同上
坪ハ外にも又内にもあり
平ハ内にあり

○同碁笥椀　坪平なし　同上

○同一文字椀　坪平付　同上

○朱丸椀　坪平付黒つぎあり　同上

○吉野椀　坪付　同上
前の品を重くし又菓子を
とりつけ深きかうむ薮さんたり
ゴケゾコ坪ハのちに利休の好
それまでハ上り子の坪平を用ひたり

○面桶椀　利休好

いつまでもくろくかぶさる蓋の外
なり坪平ハ丸くさんをうの有◎

○輪廣椀　江岑好

朱ぬりつぼめ江岑の門人利休くゞ
のこりさんいう赤ぬりにて茶会の
茶のこ茶ハ人あつまりム試時
江岑と正午の中食をひらき椀
ニ飯汁とり出されしを江岑
ふく出しして坪と猪さんを
このむ故くけさんハこの椀とも
おなじことなり

○精進椀　坪なし　利休好

重ね六の内黒し平川ふさ椹さ飯
黒色手ぬり口黒汁ほぼ菜さらし
菜金こふ帯のけはつけ飯黒ら有◎
なりき朱角きの家具

○絹繪椀　原叟好

○糸目椀　恕斎好

假ニあを公室半に有りわの席
てし黒角◎坪平九ぐん一文字椀
の内をうつ有◎

○吸物椀

○昔形　仙叟好

黒九ぐんの形なく
赤ぬりなし

○むくら

朱座ハおもるる
原叟このむ

○喰初椀　利休好　原叟好

黒竹つる亀ハ
くろぬりハ

○夕良椀　仙叟好

○徊絵　原叟好　了々斎好

ふくろハ
くひ茶ぬんハ

○くくそり　原叟好

○菓子椀　利休好

○折敷

○角不切　利休好

くぐし何足縁さ有ハ
仙叟よりなり

○鋤目　同上

○曲　同上

○朱　同上

○山折敷　利休好

○吉野折敷

根来の作なり宗啄より吉野をしきといふ

○半月折敷　如心斎好

○山高盃　織部好

此盃偽甚偽莫それ多くの物ありといへども事きゝは見これを知るべし

○古銅器の弁

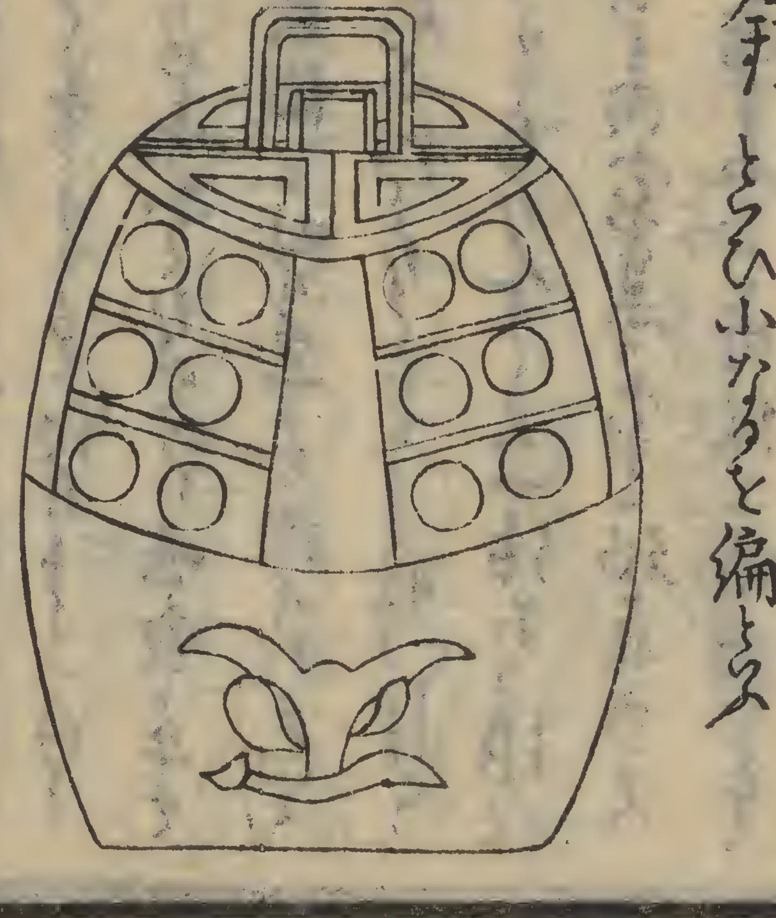
今世茶家漢の銅器を好むこと又一奇なり古代をと先作る者作まで事を論知れ人し事の文人墨客の方の茶を始め行ふ此生の銅の奇なるをつかふて座にまして

徐子が文人茶独り悦ぶていまゝすてゝ紙目をまつわくころの奇品となせるを唾壷（ダコ）として悪臭を吐る器とて捨かたらしく殊にかゝりなき茶の伴をなせしさる有かんとして又一つ傳ありの浪花の商家某が家に秘蔵の大盧の蓋なる銅器に結構を見てけしからぬ器を座中央のまへに据の環を鉄とりかへの耳をあつさきまつることあるさき花瓶をと寄てものかうありやすさ茶にまさるものなかりき総て古銅器のつかふ者を組て不額くてらし出せらに床に飾りて合せ文人茶ゆらに花を活て後日をまをとりてき茶器を付ひしふ床の日かけに飾りて者美しなりてきを飾りて者来より猪をかけて飾るなど殊にらく

うつろハ古ふの名にてあるひハ
あし舩あへうて四方威すさを
なりくをを古へあろハ仏うけ互
しうろすま此のすぐなりさ仏を
銅器をかきろわす短器なりんとハ
其用をわろりしてあつめて
それらぶ用ゆべし

銅器畧圖

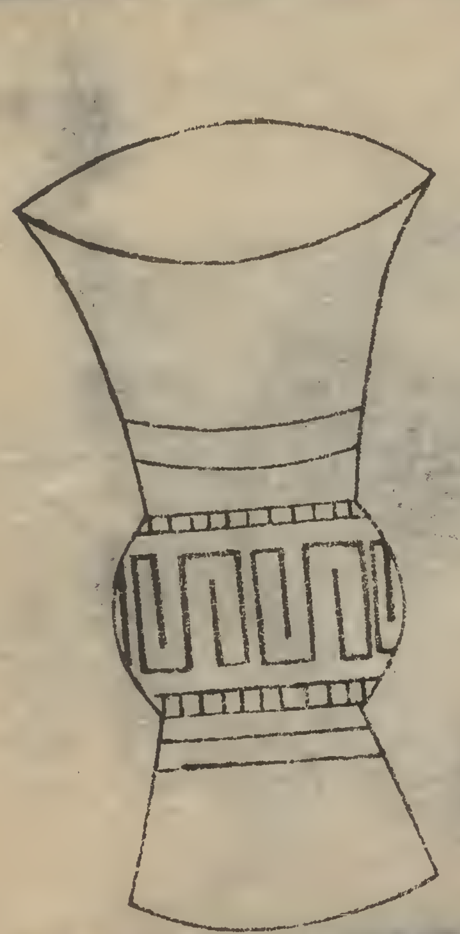
鐘（しよう） 大なるを鏞といひ中を鎛といひ小なるを編といふ



鼎（てい） 食を熟する器なり 三ツあしあり



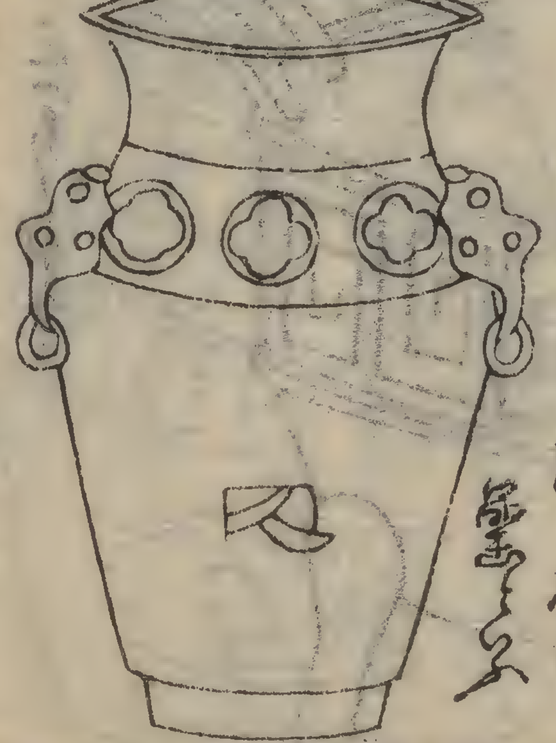
尊（そん） 酒をいるゝの器なり 様々あり



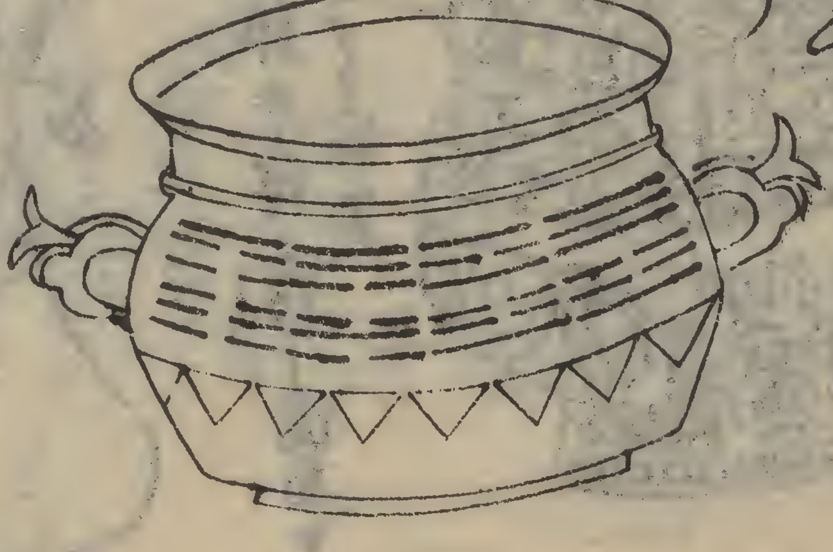
彝（い） よくまつりし掲かう



罍（らい） さけの大なるものにて壺のごとし 雲雷のかたちを彫るなり 罍と云



舟（しう） 水をたゝふる器なり

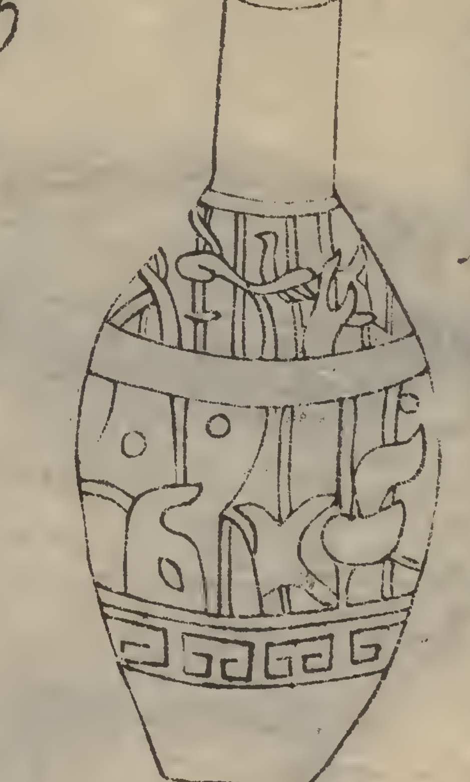


敦（とん） 食物を盛る器



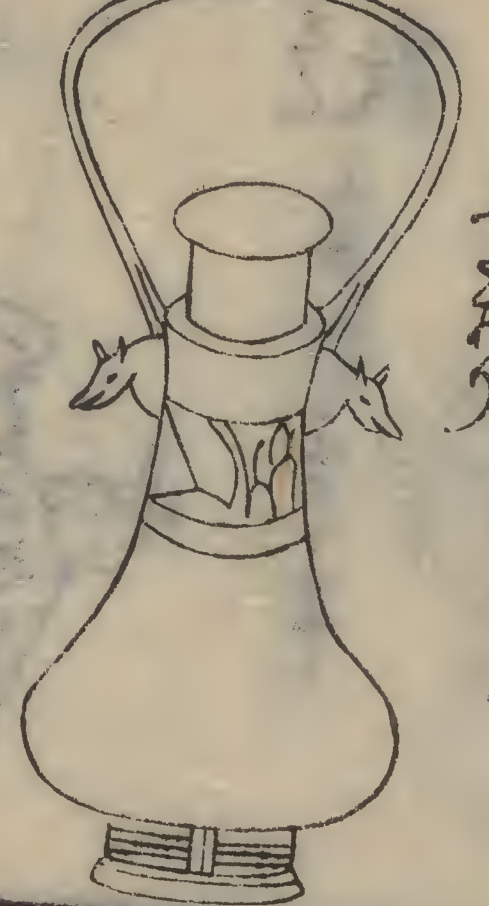
瓻(ちい)

徃くむかしの我邦の滴瓶なり



卣(いう)

酒をいるゝの器にてありけり



壺(こ)

吾邦の壺にいはゆる徳利といふものゝ器



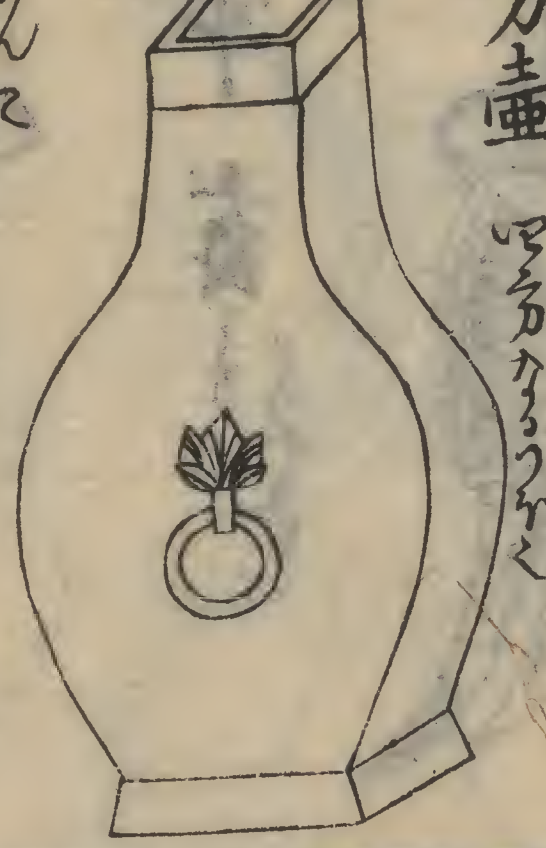
遍壺(へんこ)

平らかなる壺なり



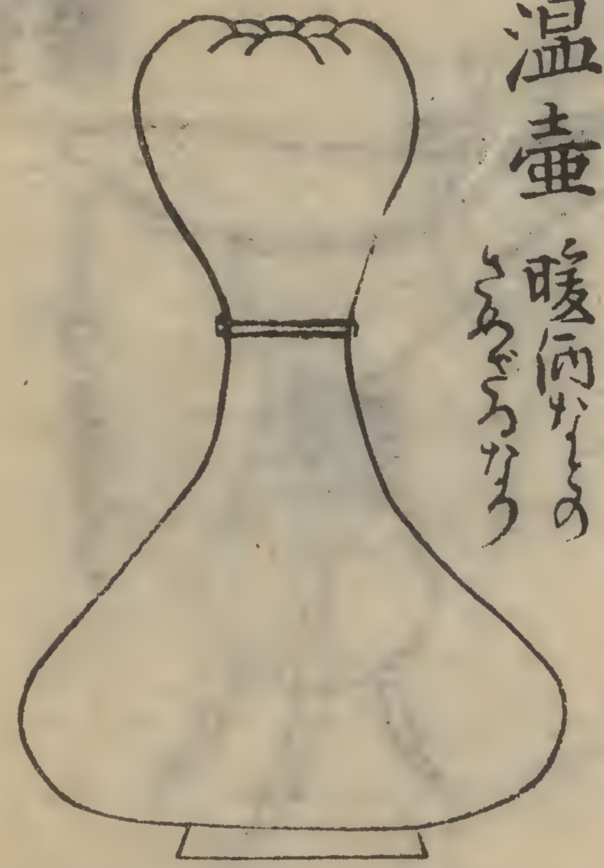
方壺(ほうこ)

四方かどあるつぼなり



温壺(おんこ)

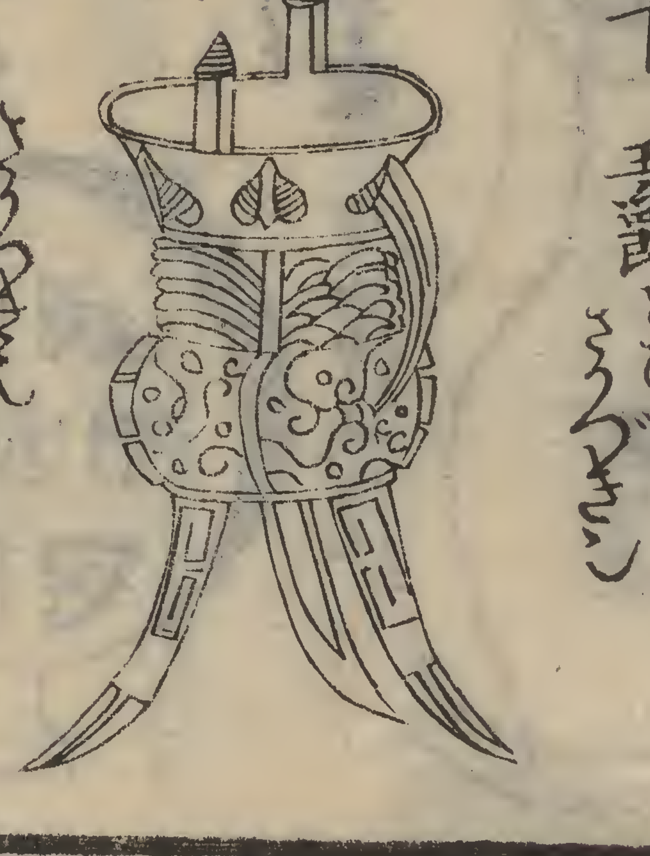
暖酒なとのうつはなり



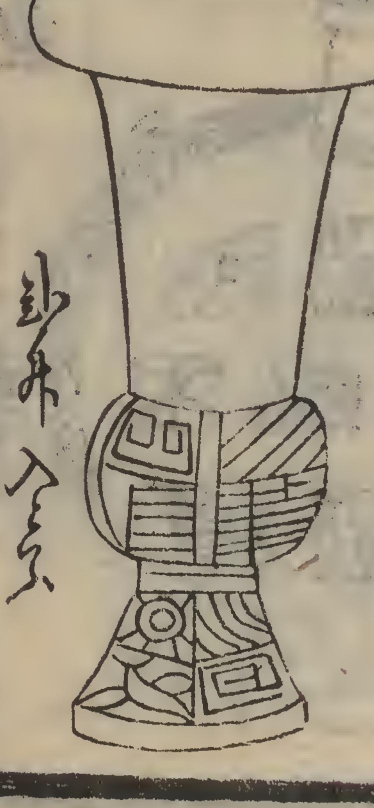
爵（しやく）　さかづきなり



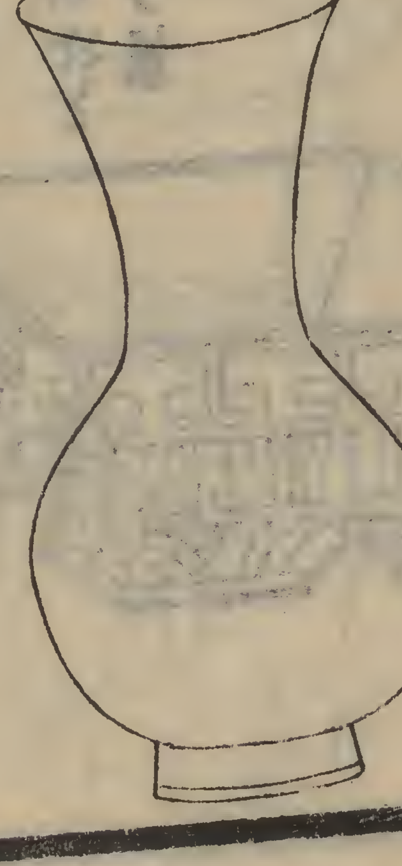
斝（か）　玉爵ともさかづきなり



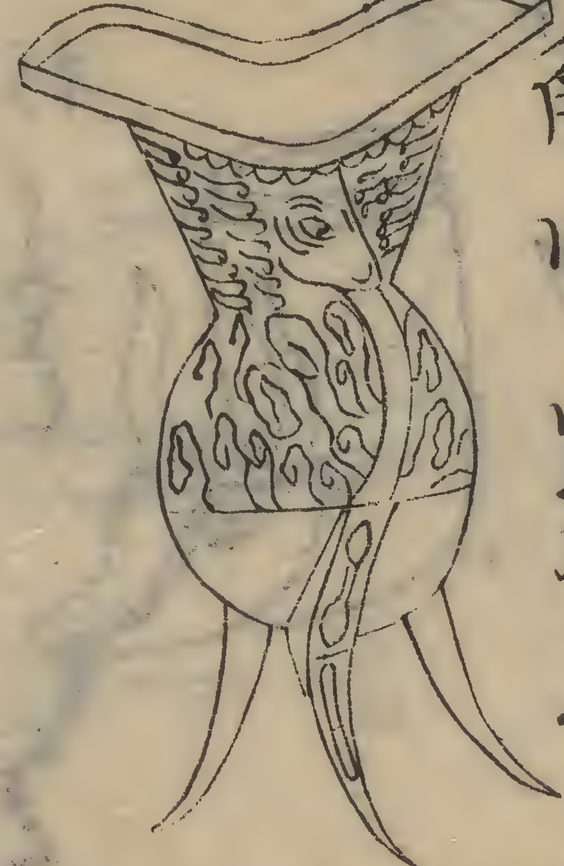
觚（こ）　さかづきなり　但しいやしき杯也　弐升入る也



觶（ぐ）　口さかづき　三升入る也



角（かく）　口　四升入る也



卮（し）　さかづきなり



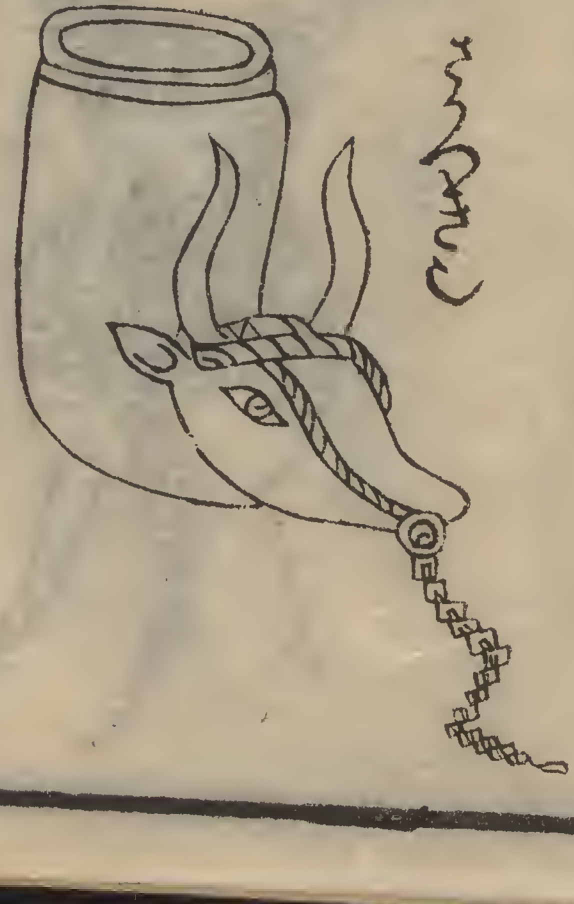
豆（とう）

魚鳥獣肉をもる器



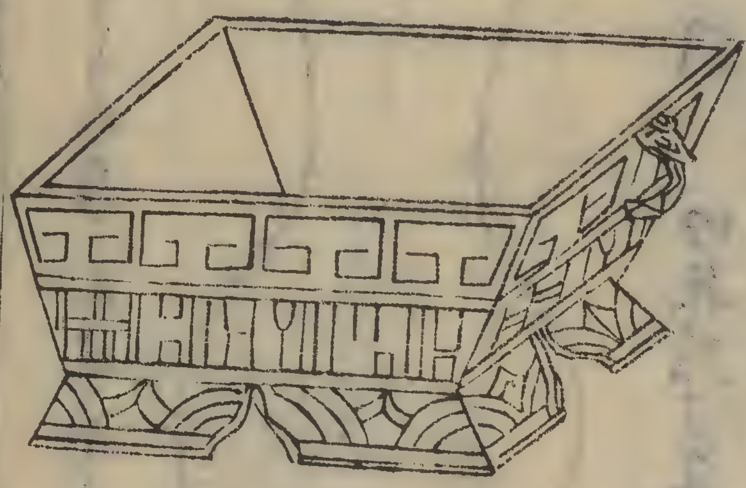
杯（はい）

さかづき



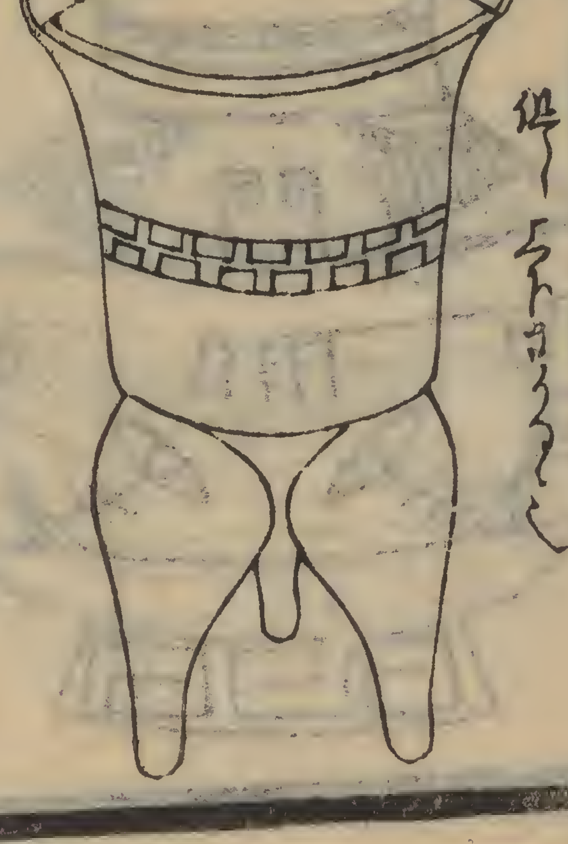
盦

食物をもる器



甗

ものをむすうつわ也　俗にいふこしき

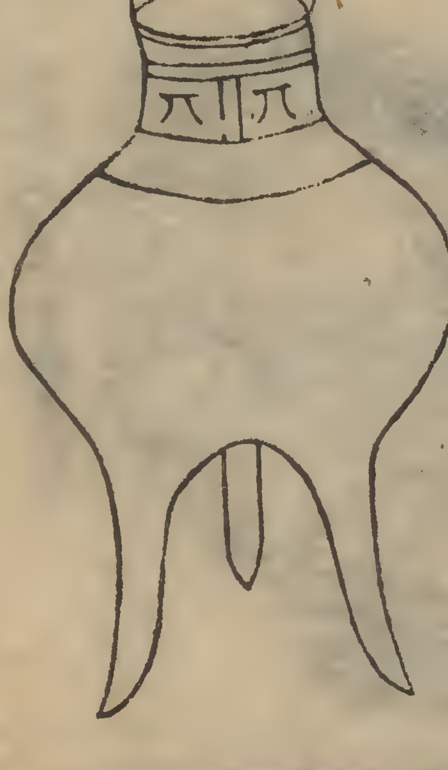


錠（ぢやう）



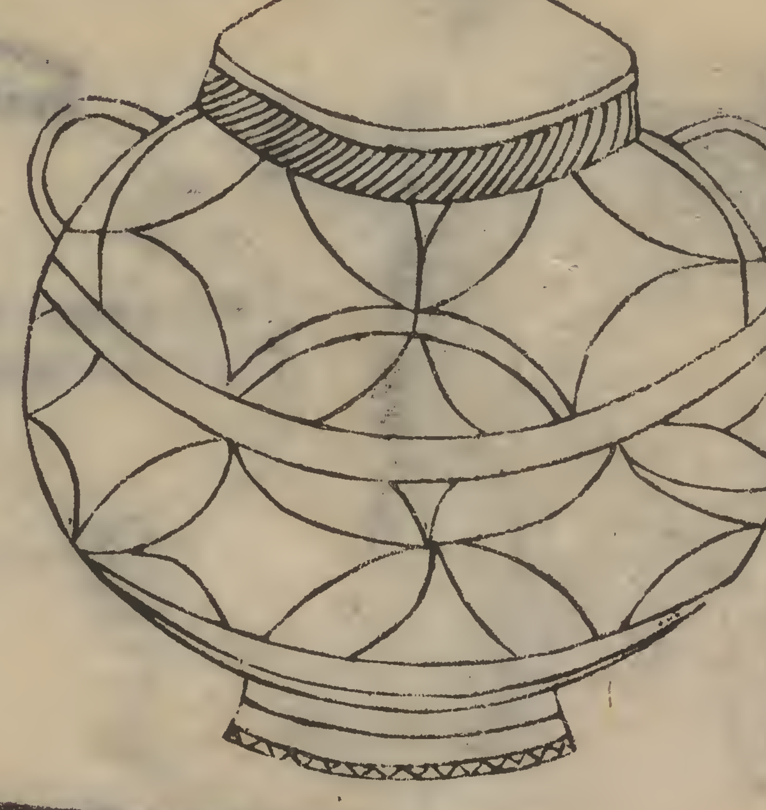
鬲

ものを煮る器なり



盦（あん）

水をいるゝうつは



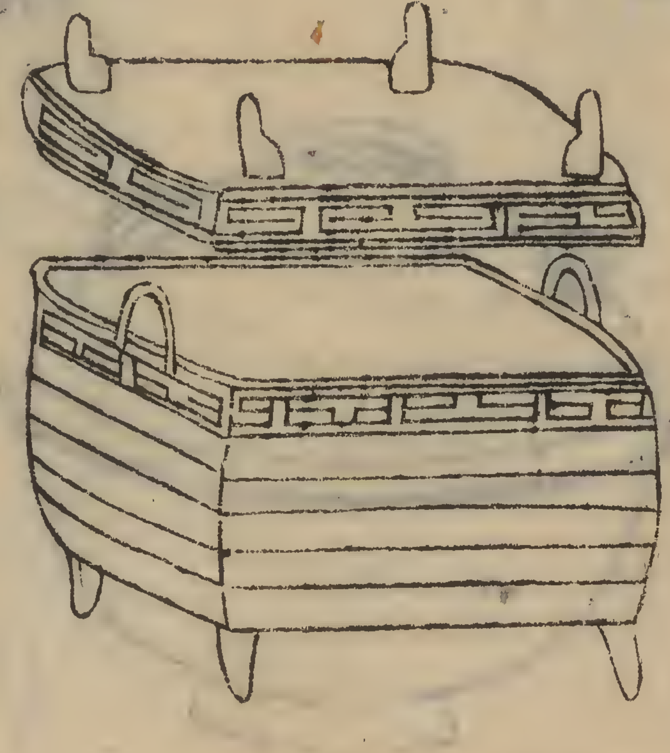
瓿（ほう）

やさ壺くひしをかくと
ふかく器て



簋（き）

ものを煮る器なり



洗（せん）

水をうくる器なり



盆（ぼん）

水をも酒をも入る器



鍑（ふく）

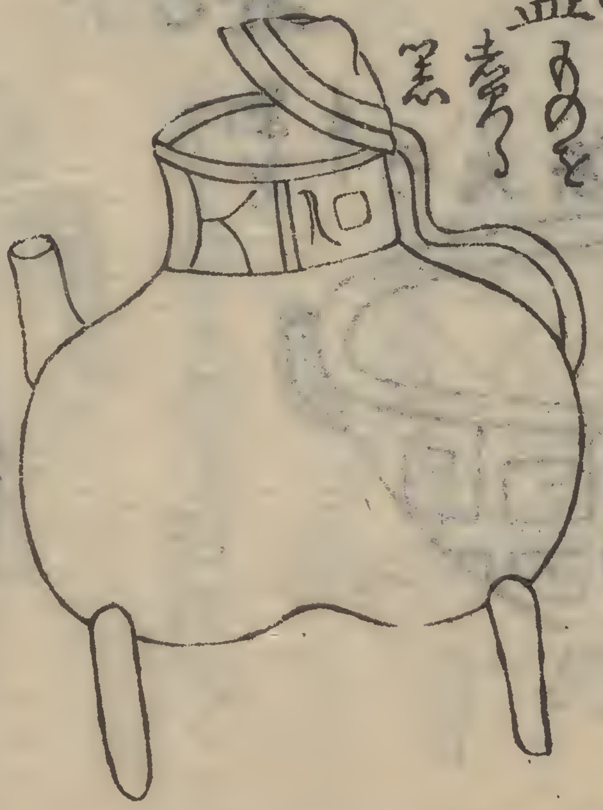
釜なり



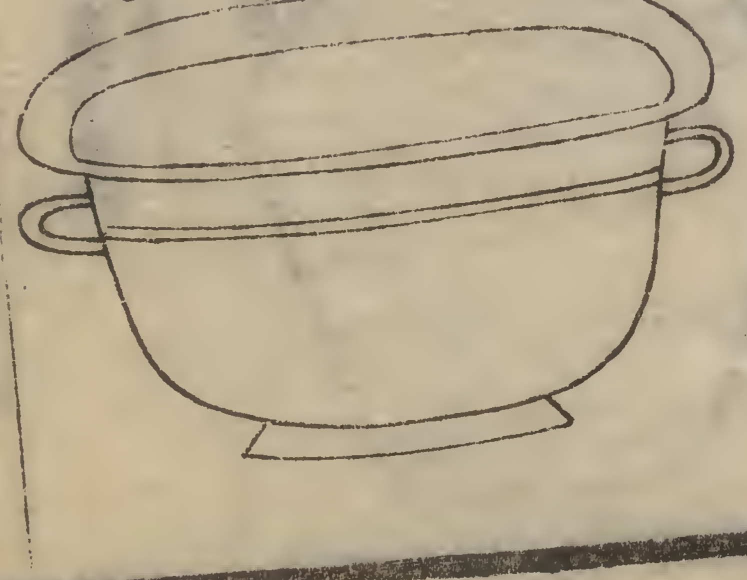
銷（けん）



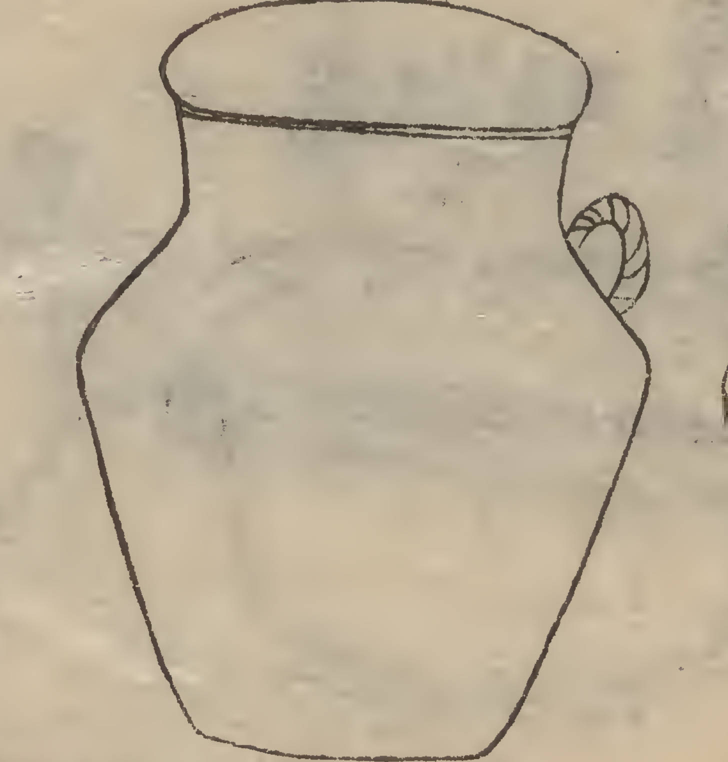
盉



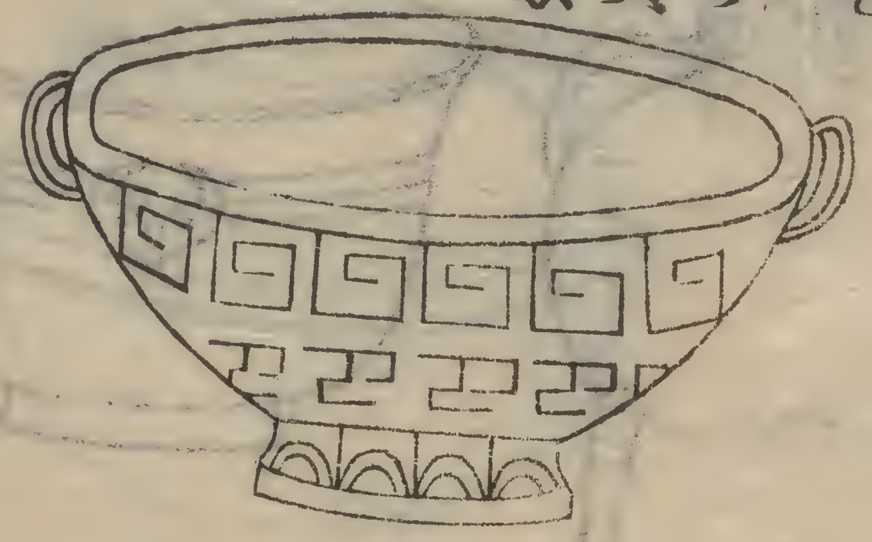
杅（う）



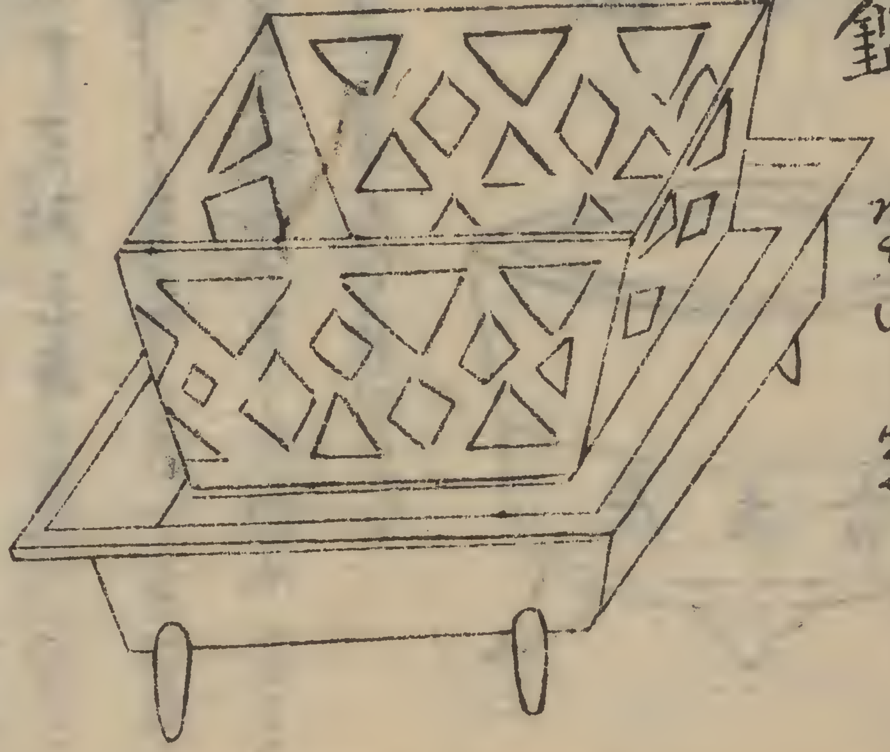
罍（く）
ゆのと若る器
瓮のごとし



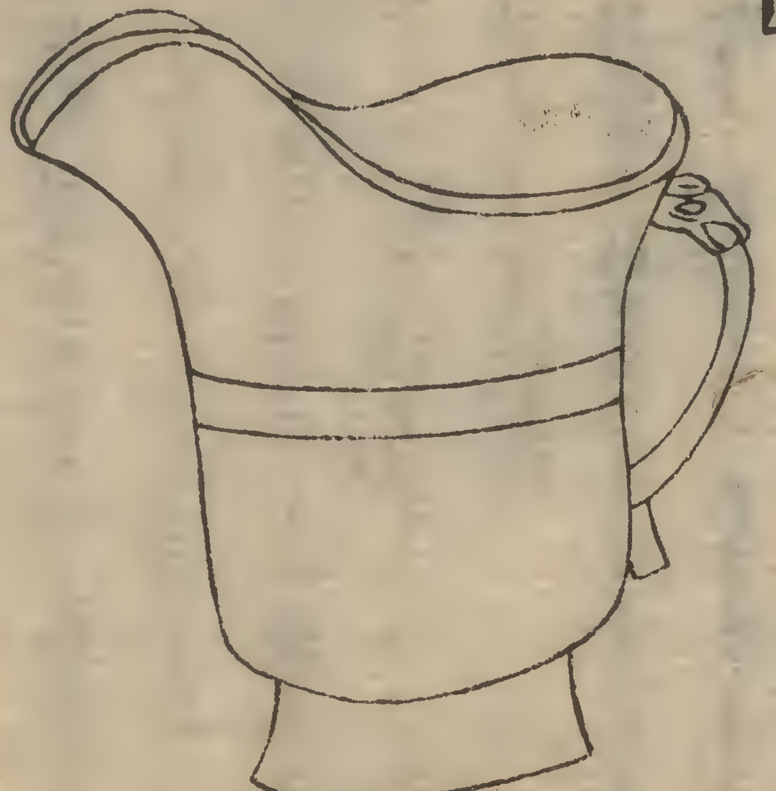
盤（ばん）
ゆとりの大器



氷鑑（ひようりん）
水をいるる器



匜（い）
てうひちんざうの類



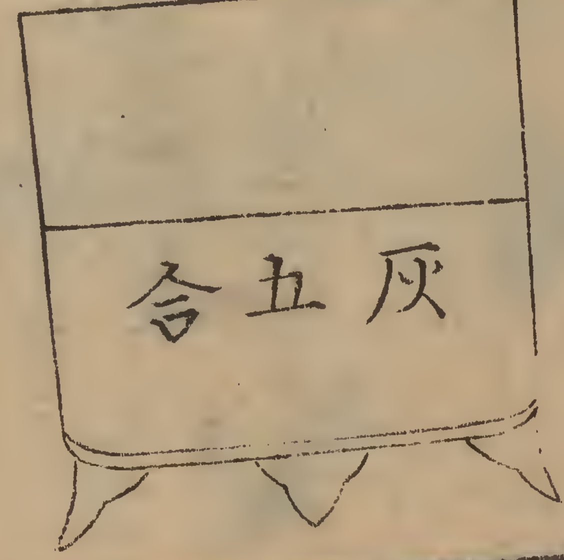
○香炉の事

香炉ハ漢の初まりより始れり是を用
ゆることを古しくすセガイハ伽羅香をたく
セガイなごと玉帝と云龥香炉ハ
セガイありて焼香炉にハセガイなし
そのときにすべて法大衛
指渡し弐寸五分より三寸一分まで
高さ弐寸より弐寸九分まで
尚銅ハ金青磁染付玉焼
井戸交趾三島楽焼其外
もしも古来ものを用ひ早ハ
古昔堆朱あるひハ松本なきよう
高麗草木を用ひよし

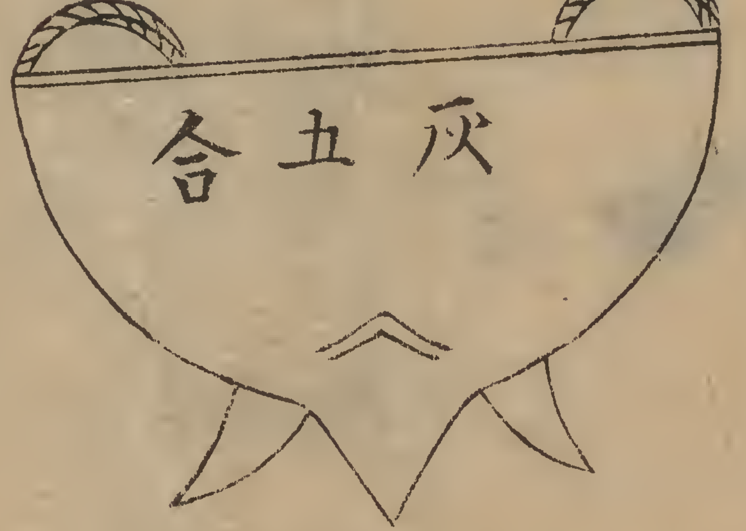
龥香炉



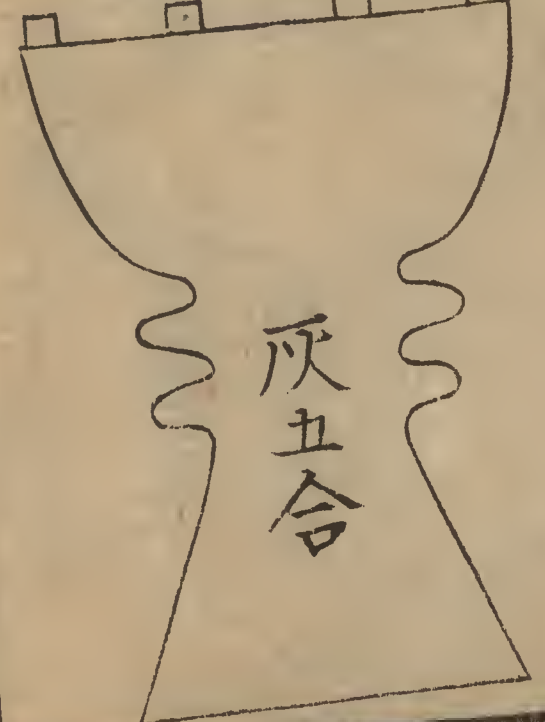
桶がた香炉



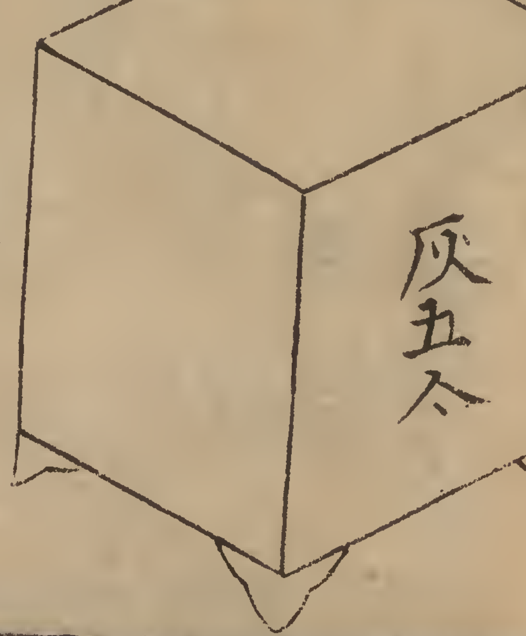
袴香炉



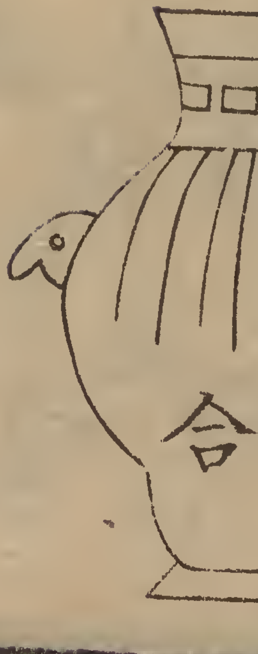
鍾屋香炉



四方香炉



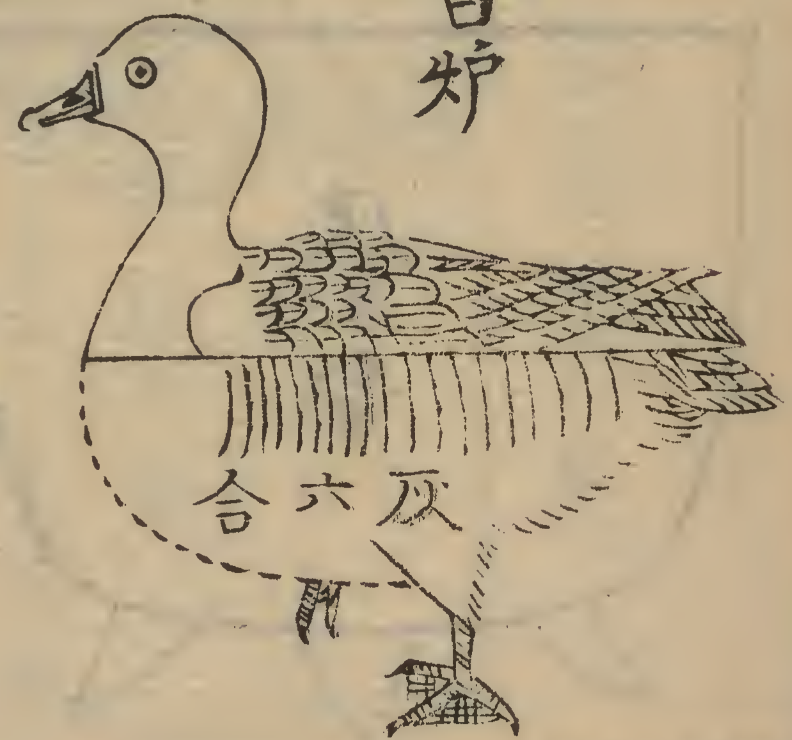
スノコ香炉



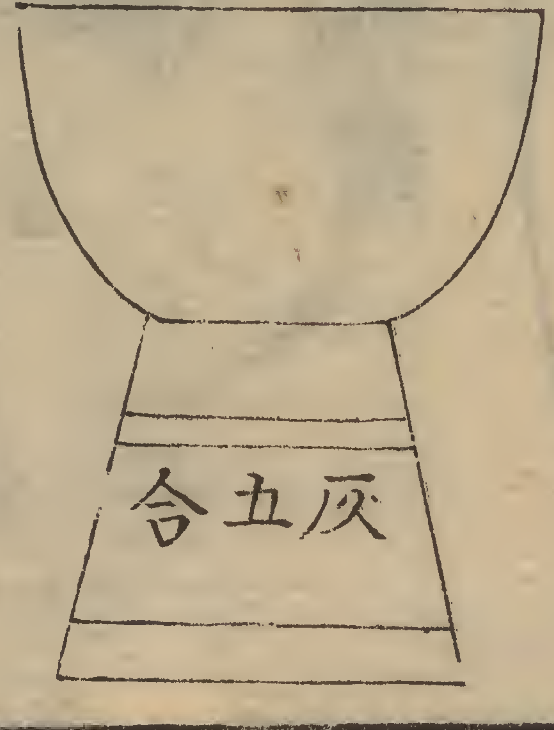
鴦香炉



鴨香炉



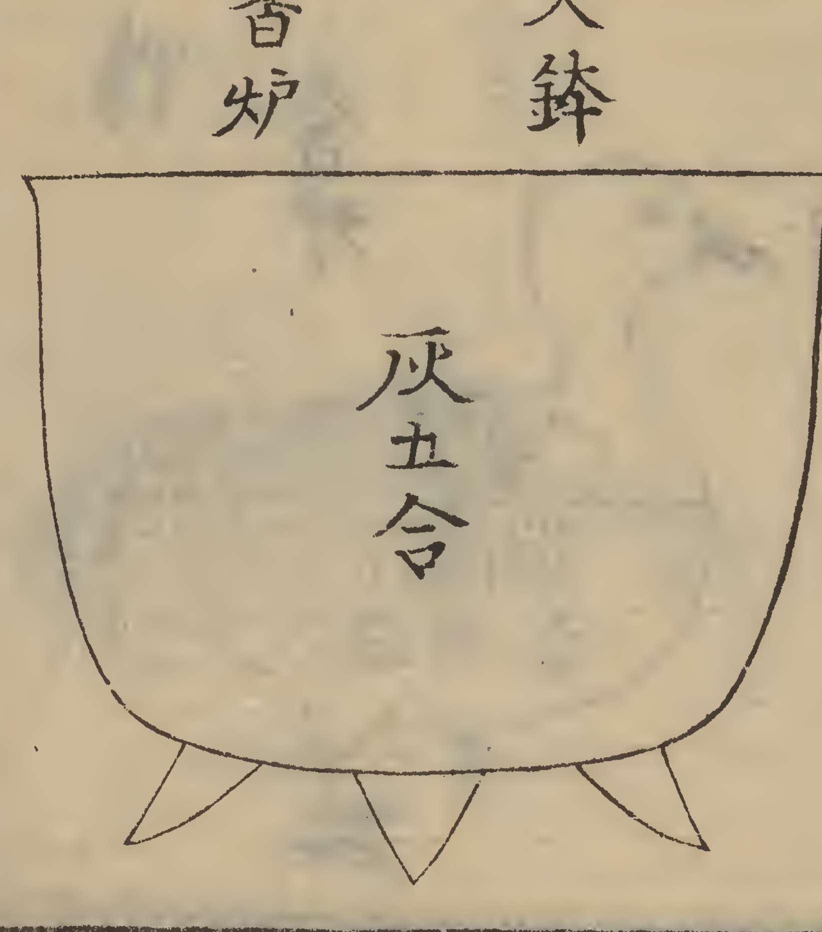
二重香炉



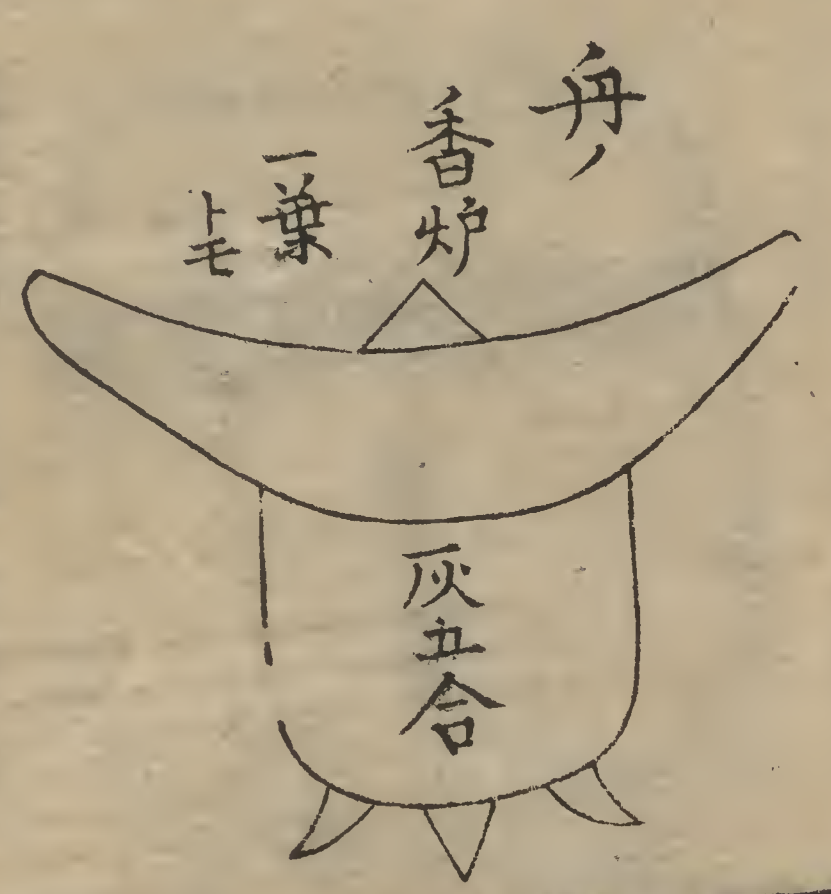
口上




獅子香炉
灰六合


火鉢香炉
灰五合


火取香炉
灰五合


舟ノ香炉
一葉上モ
灰五合

臨笥　當時香炉ニ用





○書画落款

○落款ハらく名をかくのことなり人もあらんか漢土の落款とこゝろふ手を書画せし年月およひ席上ふ於趣を記すとらハ尤も款ハ誌なりおもきゝ落ハ所謂ハ仙歌ゝ揮毫落紙とあつく紙上て書をなす接するに落成とつきてその成就をいふ詩文書画に書てのち誌とつる義の或書ニ落款数字中ふち趣をなすを容易ゝ下すきにあらず古人も落款局をゆるとそり云て号名のみ号あるひハ名のミをのせ款とすときハ局をゆるの法なるんか在隠士古人の書画を一二たしあらしろく書画をちらむ人のふ為を使ふ

○崇寧ノ元年夏六月溽暑
坐ニ海岱樓ニ書米芾
○貞観九年十月旦日率更
令欧陽詢書ニ于白鹿寺
○元豊三年端陽月八日眉
山蘇軾于ニ浄因方丈ニ書
これらの書の字ゑどあらることく
なりこの所謂秘字中々語を
なすとこゝろなり
○紹聖丙戌暮春与ニ周仁
熟ニ試ニ賜茶書ニ此楽章ニ米
元章
これ自らあらふをさとう
○中岳外史米芾為ニ国詳
老父書ス

○醉脊老人為西瑛公子
○少傳王縄老先生徴ニ書
此巻ノ應ス敎其昌
○書為ニ五定道翁明頠
○永和十二年五月廿四日
山陰縣写
○偶閲東坡詞録ス一過艶
翁
ちかゝる書は數なり又
画人をもよく写すといへる世
のさとえしるし為のまかり字
あり
○画院学士趙幹状
○曜州三源人范中立画
○風雲稟石平遠圖壬戌

歳郭熙画

○熙寧元年仲冬文同作

○画院劉松年繪

○平陽李山製

○子昂戯作双松平遠

○至正二年夏五月望大癡道人黄公望寫雲間玄真道院造

○至正三年秋氷壺外史華

婦人の名款

○銭塘幽棲居士朱氏淑貞書

○仲姫画与芬瓊

○書画價拾遺

古書画ハたゞ一紙の反古なれども好古の人のもてあそぶ希世のものなれバ價かぎりなくして價ある事ハさらにいふべくもあらずむかしの書をもて論ずることあり王右軍の書蹟王東帖といふハわづか八十一字なるを米元章ハ十五万緡にかへたりしかバ又右軍の千金帖を元章六千にて買得しけるとなむ宋の二徐帖を文衡山これ希世の宝なりとて七十二両をもて買一紙ハ七十六金をもて求む吾朝にも定家卿の小倉色紙ハ一枚の價百両にもおよびしとぞ又切を手がかりなるを八千金にても求めし人ありとかや三十六歌仙の名筆をもとむる人金の價をいとはず求む

ろハ古筆の一字一名よりハ大る多く
そうしろく四絹乃巻尾の半画
乃價をも出すとかても菓なり
好さるをとりつきころ見ゆしく又
くと世の名高きを加へてふるひ
おくりものとしく

書家

實頼 金三百両	定信 金三十両
信尹 同五両	敦直 同八両
家熈 同十両	大雅 同三両
乗圓 同二両	宣就 同一両二ア
志津广 同三ア	雪山 同五百疋
永菴 同三ア	素白 同二歩
素元 同一ア	廣沢 同三歩
独立 同二ア	道本 同二朱
南谷 金一ア	明衡 金八十両
空洞 同二朱	敦光 同七十両
百拙 同三ア	大年 同二ア
窮楽 同一朱	陶益 同二ア
思恭 同上	九華 同一朱
烏石 同上	孟彪 同二朱
玉桂 同一ア	東江 同上
宮奇 同三ア	草芦 同上
蒙所 同三朱	忠京 同一朱

歌人

信範 金七十両	為村 金五両
慈鎮 〃十八両	資枝 〃二両二ア
西行 〃五十両	智蘊 〃十両
国基 〃七十両	昌俊 〃十五両

有資、五十両　長孝、二両ア
実朝、卅両　義持、三両
為兼、五十両　義尚、三両
長明、三十両　植家、三両
藤房、五十両　成之、五両
浄花、八両　氏康、五両
倚長、六両　氏政、一両ア
実隆、十二両　氏直、一両ア
義満、八両　季吟、三両
光栄、五両　長流、三両
通茂、四両　契沖、八両
通躬、三両　年山、二ア
実陰、六両　春満、三両
篤久、一両　真淵、五両

魚彦、一ア　成章、二朱
宣阿、一ア　宗岐、口
似雲、三ア　在満、一ア
桜塢、一ア　御風、二朱
涌蓮、一両　祐為、二ア
澄月、一ア　千蔭、二朱
芦庵、三ア　春海、一ア
宣長、一両　蒿渓、二朱
枝直、一ア　秋成、二朱
久老、一朱　武女、一ア朱
土岩、一ア　辨子、一ア
古道、一ア　倭文、一ア
民子、二朱　梶女、一ア
由利女、二朱

儒者

匡房 金壹両　由的 金二ア
廣元、十五両　道乙 同
惺窩、十五両　友元 同
昌三、一両　冩梧、一両
亡羊、五両　専吾、三両
春齋、一両　惟命、十両
函三 同　蕃山、三両
活所 同　素心、一両
丈山、十両　錦里、三両
芝山、一ア　竹軒、二ア
木菴、二ア　白石、五両
三竹、二ア　鳩巣 同
省菴、一ア　芳洲、二ア

篤信 金一両二ア、垂加 金七両
仁斎、十両　長胤、一両二ア
徂徠 同上　東壁、一両二ア
春臺、三両　孝孺 同
南郭、二両　万年、一両
玉山、二ア　明霞 同
純禎、二朱

釈氏

円悟 金千両　明菴 金百両
道元、百両　無準、八十両
聖一、八十両　如大、五十両
兀菴、五十両　一山 同
西澗 同　夢窓 同
明恵、十五両　虎関、三十両

月林 金卅両 東陵 金十三両
竺仙 〃 中嵓 、十五両
石室 〃 愚中 〃
支梅 〃 龍湫 、十二両
可翁 、十五両 妙葩 、三十両
乾峰 、三十両 無求 、十五両
寂室 、五十両 義堂 〃
高山 、三十両 絶海 〃
別源 、十五両 鄂隠 〃
友雲 〃 巌中 、十二両
峨山 〃 汝霖 〃
通幻 〃 周鳳 〃
玄翁 〃 竺雲 、五両
無極 〃 大年 〃

玉畹 金五両 中峯 金五十両
竹香 、三両 寒嵓 〃
愚極 〃 江月 、十両
桂悟 〃 清嵓 、十二両
虚堂 、百両 玉舟 、三両
南浦 、百両 天室 、二両
大燈 、八十両 天佑 、一両ア
徹翁 、卅両 江雪 、八両
言外 、十五両 実堂 、一両ア
華叟 〃 翠嵓 、五両
春甫 、八両 無因 、十五両
南江 、七両 日峯 、十五両
明極 、五十両 義天 〃
清拙 〃 雪江 、十両

景川 金八両　元政 金十両
悟溪 日　養叟、十五両
特芳、六両　慈眼 三両
東陽 同　策傳、一両
独秀 五両　東寔、三ア
快川、一両ア　文守、二両
白隠、三ア　盤珪、一両ア
隠元、二両　河南 同
木菴、一両　無難、一ア
即非 同　通容、三ア
高泉、二ア　悦山、一ア
笠庵 同　泊如、一ア
超元、二ア　鉄眼、一ア
心越 二ア　玄光、一ア

連歌俳諧

心敬 金八両　淡々 金二朱
肖柏 十八両　千代、二ア
基佐、廿三両　蕪村、三ア
守武 日　越人、三ア
卜養、一ア　許六、二ア
貞徳、三両　支考、三ア
宗因、二ア朱　智月、一ア
鬼貫、三ア　土芳 日
芭蕉、十三両　乙由、三朱
其角、三両　蓼太 日
嵐雪 日　蝶夢、一ア
去来、一両ア　立圃、二朱

茶人

珠光 金五十両	江岑 金三十両
宗珠、卅両	随流 口
澄胤、八両	友流、五両
宗悟、廿六両	覚二、四両
引拙 口	天然、二両
紹鴎、廿五両	仙叟、三両
宗瓦 口	常叟、五両
道陳、十三両	泰叟、二両二ア
宗及 口	宗乾 口
功叔、六両	一燈、二両二ア
利休、廿両	慶首座、五両
少菴、八両	傳首坐、三両
宗旦 口	宗不、六両
宗拙 口	宗偏、二両二ア

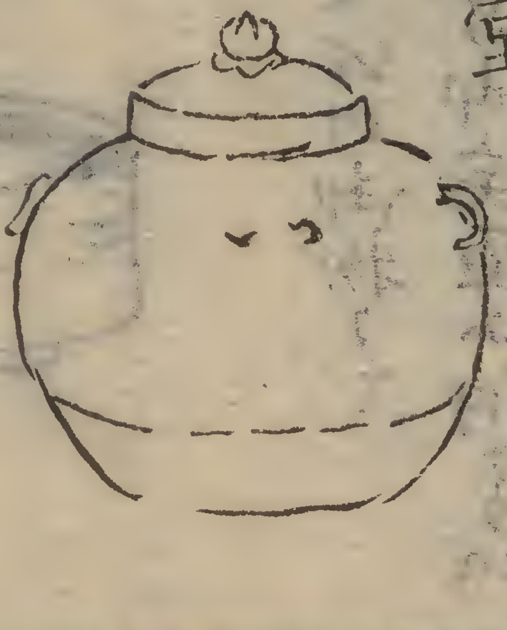
普斎、二両二ア	忠貞、十二両
庸軒、五両	重勝、二両
踈安、二両二ア	吉勝、三両
言當、五両	宗透、三ア
道億、三両	貞昌、十両
二三、二両二ア	宗和、二両二ア
一翁、三両	蓬雪、三両
文叔、二両二ア	光甫 口
真伯 口	堯然、二両二ア
直斎 口	有隣、一両
常真、二両二ア	宗鎮 口
有楽、七両	乾山、二両二ア
道八、十五両	剣中、六両
氏〃、三両	剣溪、三両

竹心、三両 宗政、三ア
竹陰、二ア 不白、二ア
楽只 同 啐啄、二両
宗五、三両 了々、三ア

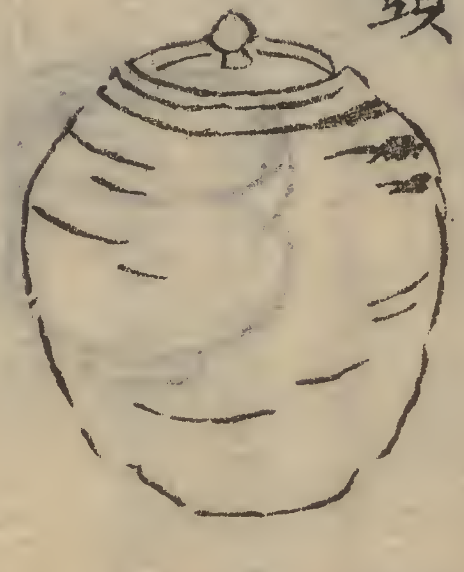
右の價さためかたしといへとも
あらまし世上にて云ふ所をしるす
なりまう百両ばかりなるもあり
かくその人によりて代金甲乙を
まつたく定めかたく人々の好み
とく粗なるより價かなるは次なり
其ふまで載せんとす

○前帙遺漏及追考

阿弥陀堂
釜
与二郎作



水差
南蛮芋頭



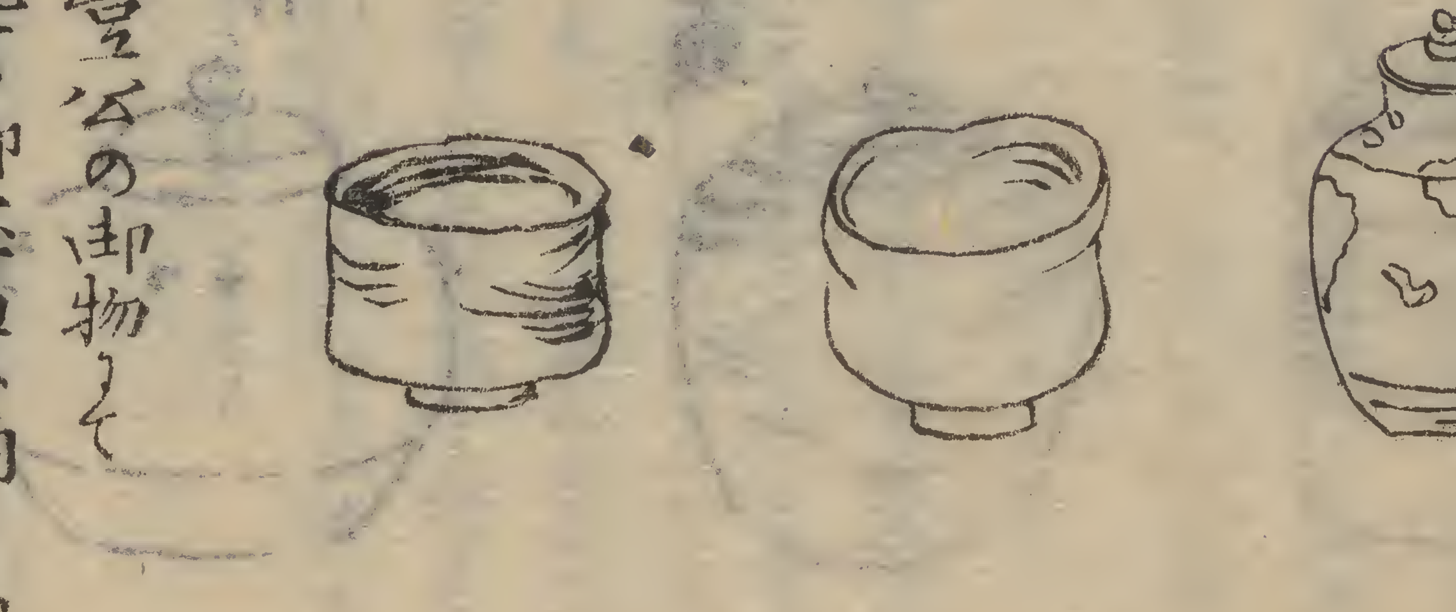
同
唐製
唐銅



茶入
藤四郎作

茶碗
高麗
銘瓢

同
黒楽
長二郎



右ハ豊公の御物にて
妙法院宮御宝庫に納まる処
先年拝覧せしを縮写して
後人のために爰に記す

○茶杓作者 遺漏

塩瀬　宗清　今京
甫竹　慶首座　古竹坊
弟子
附録

○守徳形かいも茶杓のいわもとを拵る
なり何れにあつらへて作らしむ
茶杓あり
○いにしへは茶杓を得てさきうち従人まて
象牙又角などにて用ひ其のちは
利休など竹にて削り一宗のうへ伯
又葉すそつる利休ハ象牙の形
竹の形さうつる甫竹作を

○柄杓作者 同上

声阿弥 珠光時代　東堂 宗珠時代
養仙 宗易時代　尼加 養仙弟子

宗良　今京　宗哲代 宗仁代

○茶筌作者 门

蓬萊 紹鷗時代 甚四郎 日代

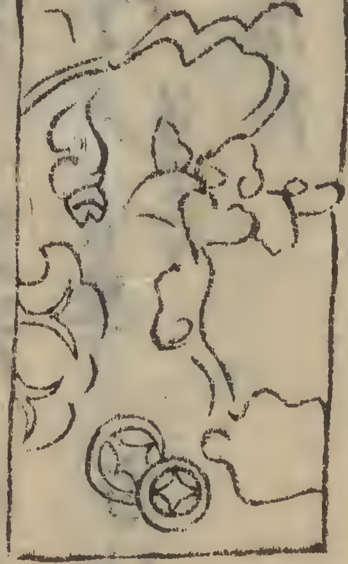
玉琳 宗易時代

高山甚之丞 宗易代秀吉公天下一号被下

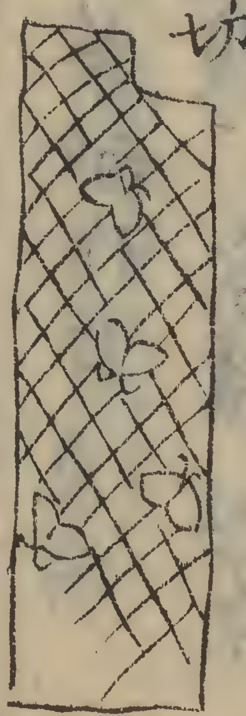
二代目今京 紹鷗後代 半十郎代

○名物切口

焼切

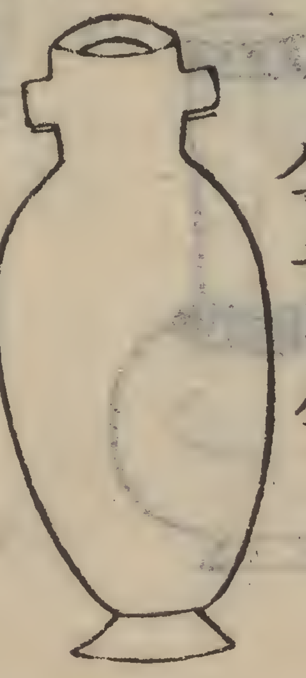


高野切

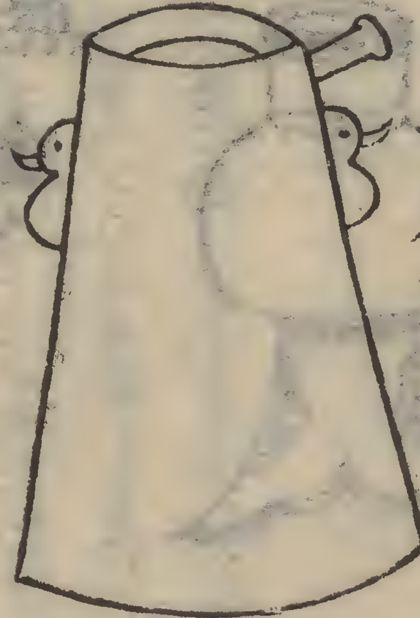


○花器 同

古銅 唐 今寸五ア分　曾耳トモ云



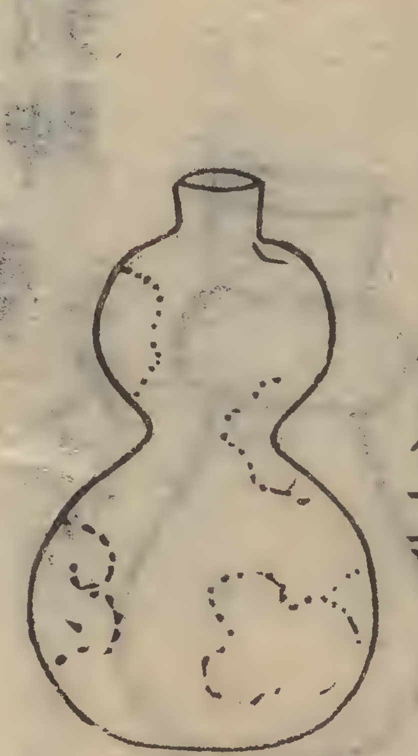
樋口 別種 唐 一尺一寸



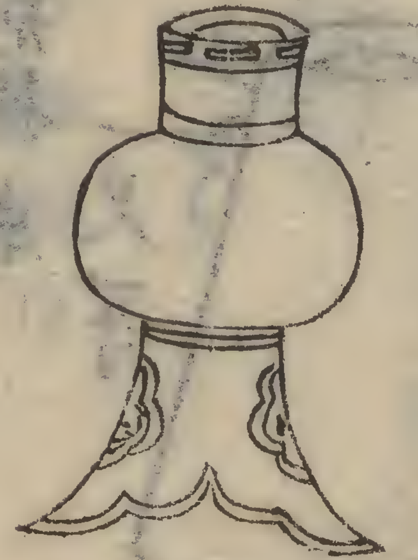
引紳 唐 一尺一寸



青磁瓢　一尺一寸



中蕪　銅ぐ



逆蕪



蕪ナシ



竹子



用ふへハ茶壷の生花なとも真
座にて白骨を入る事あるまじく
やはりの骨壺なり又常住常を
ひふ家入も虫骨を入る　骨へ
久しくて年経て常よりは出
ことのなれバ然外ざるかなし
但常住常とふるハ俗に神前を
か田忌まるべくよう事を入る
よう受忌きぬ事○ともおきよう肖様
まなぶし

○茶人所賞漢画

韓幹 馬画　戴嵩 牛画

禅月 羅漢　李思訓 山水

徐煕 花鳥生類　黄筌 人物花鳥

徽宗皇帝　郭煕 山水

趙昌 人物　牧渓 花鳥竜虎

玉澗 山水　馬遠 山水人物

夏珪 山水人物　馬麟 同上

梁楷 同　李龍眠 竹石

胡直夫 人物牛　樓観 山水人物

李安忠 山水花鳥　李迪 同

高然輝　李唐 同

呂記　李翁 人物花鳥

毛益 花鳥　陳所翁 龍

閻次平 山水人物　文与可 山水竹

米元章 山水枯竹　趙千里 山水花鳥

揚補之 梅竹　李嵩 人物

中空山 人物　趙子固 山水梅蘭

日観 蒲萄　仲華光 梅

元 柏子庭 枯木菖蒲　銭舜挙 山水人物花鳥

王若水 同上　趙子昂 同馬

趙仲穆 山水人馬　孫君沢 山水人物花鳥

張芳汝 同　雪窓 芝蘭

顔輝 人物生類　王元章 梅

夏明遠 山水　檀芝瑞 竹

因陀羅 人物仏　文徴明

唐伯虎　仇英

茶家酔古襍丑編 大尾

茶家酔古襍　全五冊
自初集二集三集四集至五集
此書初集より五集にいたるまで茶家大系譜及ひ茶師并金師をくはしくしるし
茶道具の名器名蹟の諸工の系図并に
古器名器の図をあらはし其作者の
花押并筆跡を模写して凡茶家
にあつかる事ことごとく詳に記して新古
真偽の目利に弁せしむるにかく
調法の書にて茶人の必要
重宝にて所持すべき書なり

茶式湖月抄　全二巻
千家式法并茶道伝書茶器飾棚組等
其外茶事の規則を委しくしるす

喫茶明月抄　全三巻
速水宗達宗匠茶道の秘事并に
茶事心得方を専らに初心の為に又茶席
ことごとくおのおの又おしえ論説書を
記し茶人事の行ひをあらはす

金工便覧　懐本　二巻
後藤家より代々の系図并茶器伝来并
古今の彫工名工并目利の書

鑑定便覧　門　八巻
新古鍛刀を始め書画骨董人俳人又は逸
人凡海内の名人の筆跡を挙け目利の一助とす

茶家酔古襍初集二集全三
篇目成テ茶人ノ系図花押ヲ
始メ名物茶入名物切茶具図説
價録ニ至ルマデ茶道具鑑定
ノ要委ク全備ス尚四集目ニ
八古画ノ図説古鐵ノ図古今ノ
鍛冶名寄并ニ新古刀剣ノ
図等総テ小道具目利ノ専
要トナルベキ事ヲ漏サズ輯録
シテ鍛冶鑑定便覧ト名附テ
近ク賣出シ候

天保甲辰秋日
書房　京寺町通六角下ル　近江屋佐太郎